

KORG DIGITAL PIANO

# CONCERT



# C-8500

お買い上げいただきありがとうございます。  
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

## 取扱説明書

### 目次

安全上のご注意	ii
バックアップバッテリーについて	iii
データについて	iii
取扱説明書の表記について	iii
演奏を楽しむためのエチケット	iii
おもな特長	4
C-8500各部の名称とその機能	4
スイッチの機能	6
演奏するための準備	7
デモ演奏を聴いてみましょう	8
デモ曲で演奏練習をする	9
弾いてみましょう	10
1. 音色を選ぶ	10
2. 音色を組み合わせる	10
3. 音色に効果を加える	12
4. ペダルを使う	12
5. メトロノームに合わせて演奏する	13
6. 鍵盤のタッチ感を変える	14
7. キーを変更する(移調)	14
8. 音の高さを微調整する(ピッチ調整)	15
9. 音律を選ぶ	16

演奏を録音/再生してみましょう	17
1. 演奏を録音する	17
2. 演奏を再生する	18
3. アンサンブルを楽しむ	19
他の機器との接続	20
1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続	20
2. MIDI機器との接続	20
3. コンピュータとの接続	23
故障とお思いになる前に	25
LED画面のメッセージ	26
仕様	26
設定の初期化	26
スタンドの組み立て方	27
C-8500 Program List	29

**HI** HYPER INTEGRATED  
SYNTHESIS SYSTEM

# KORG

**PCI/F**

# 安全上のご注意

## WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

	<b>CAUTION</b> RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN	
<b>AVERTISSEMENT:</b> RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.		
<b>注意</b> 感電の恐れあり、キャビネットをあけるな		
CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.		

## マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近に置いて、お子様から専門家の方まで幅広く愛用していただけます。デジタル・ピアノは大きくて重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での置き場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。小さなお子様には、最初にご家族の方が教えてあげてください。



## 警告



- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は、水平で平らな床面に行ってください。
- 本製品を移動するときは、デジタル・ピアノ本体とスタンドを別々にし、必ず2人以上で持ち上げてください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、製品に液体がこぼれたとき
  - 製品が（雨などで）濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき



- 本製品は、キーカバーまたは譜面立ての開閉時に、指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分に注意してください。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。最寄りのコルグ・サービスセンターまたはコルグ営業技術課へ、必ず相談してください。
- 本製品の上へ乗ったり、下へもぐり込んで遊ばないでください。
- 本製品の上へ、物を置かないでください。落ちると危険です。
- デジタル・ピアノ本体に、前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。
- 地震時は、本製品に近づかないでください。

- 電源コードは、無理に曲げたり、重いものを上に乗せないでください。電源コードに傷がつき危険です。
- 本製品を単独で、またはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合、設定によっては、永久的に難聴になる程の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。
- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
  - ホコリの多い場所
  - 振動の多い場所



- 濡れた手で、本製品を使用しないでください。



- 風呂場、シャワー室などで、本製品を使用しないでください。



- 本製品を水気のある場所で使用しないでください。
- 本製品に水をかけたり、水をこぼさないでください。



- この機器を分解したり、改造しないでください。

## 警告 (スタンド)



- 付属のスタンドは、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、確実にデジタル・ピアノ本体を設置し、使用してください。
- 長期間使用になりますと、スタンドのネジが緩む場

合があります。使用中にスタンドの揺れを大きく感じるときは、安全のため、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

## 警告 (イス)



- 付属の椅子は、ピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり踏台にすると、転倒したり壊れたりして危険です。



- 付属されている椅子の高さ調節は、椅子から降りてから、確実に行ってください。腰掛けたままで行うと、手を挟むことなどが危険です。



- 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。

## 注意



- 本製品は、正常な通気が妨げられることのない所に設置し、使用してください。
- 本製品は、マイクロコンピュータを使用した機器です。このため、ラジオやテレビなどを接近して同時に使用すると、それらに雑音が入ることがあります。また、ラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて、誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは、十分に離して使用してください。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- スイッチやツマミに必要以上の力を加えると、故障の原因となりますので注意してください。

- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は、絶対に使用しないでください(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。



- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

## バックアップバッテリーについて

本製品は、電源オフ後に内蔵メモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。LED画面に“Lo”の表示が出たら、バッテリーの交換を行う必要がありますので、最寄りのコルグ製品取扱店または、コルグ営業技術課までお問い合わせください。

- “Lo”表示を消すには、いずれかスイッチを押します。

## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 取扱説明書の表記について

### スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[ ]で括弧しています。



: 使用上の注意を表します。

(p. ■): 参照ページを表します。



MeMO : 設定した内容の記憶に関する記述を表します。

## 演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

## おもな特長

### 多彩な音色 (p.10)

コンサートグランドピアノの音色をはじめ、コルグ独自のHI (Hyper Integrated) シンセシスシステムによる豊かな表現力を生む高品位な10種類の音色を内蔵しています。レイヤー機能やスプリット機能で、同時に2つの音色を組み合わせる演奏することができます。

### エフェクト機能 (p.12)

コンサートホールで演奏しているような響きや、音にうねりを与え広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

### ペダル効果 (p.12)

アコースティックピアノのように、ダンパー効果、ソステナート効果、ソフト効果の3機能があります。本機では、ダンパーペダルがアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。また、ダンパー・ペダルとソフト・ペダルには、ペダルを踏む深さにより効果のかかり方が調整できるハーフペダルを使用しています。

### メトロノーム機能 (p.13)

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

### レコーダー機能 (p.17)

テープレコーダーを操作する感覚で、自分の演奏をそのまま録音、再生できるレコーダーを内蔵しています。

### タッチコントロール機能 (p.14)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、5種類の中から選択できます。

### 音律 (p.16)

10種類の音律(平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター他)を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。

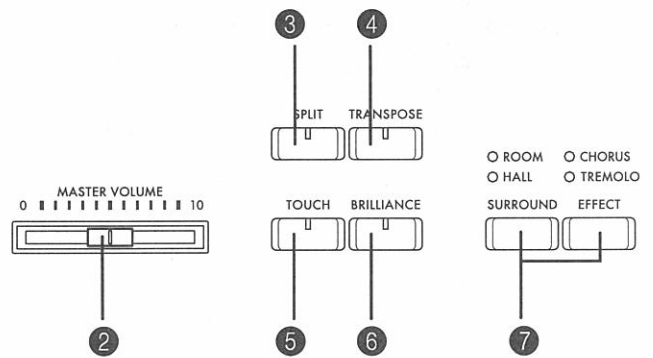
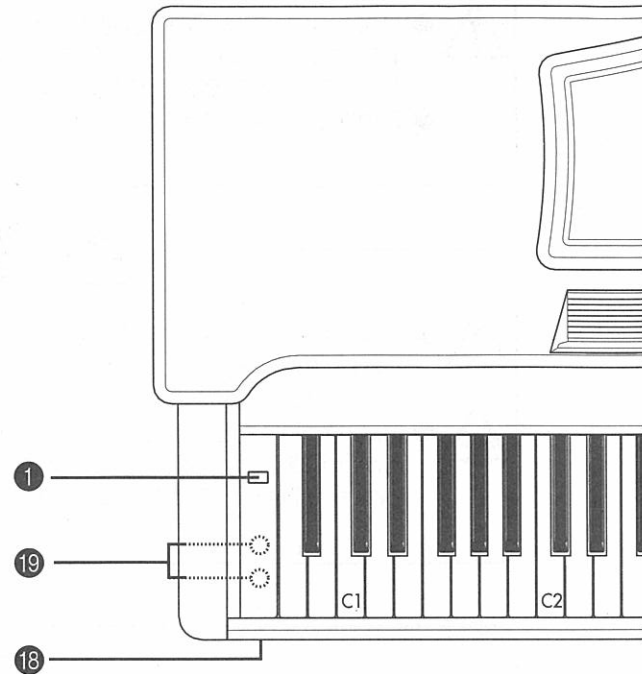
### 音程の調節 (p.14)

トランスポーズ機能によって移調を、ピッチコントロール機能によって音程の微調整を行うことができます。

### MIDIの装備 (p.20)

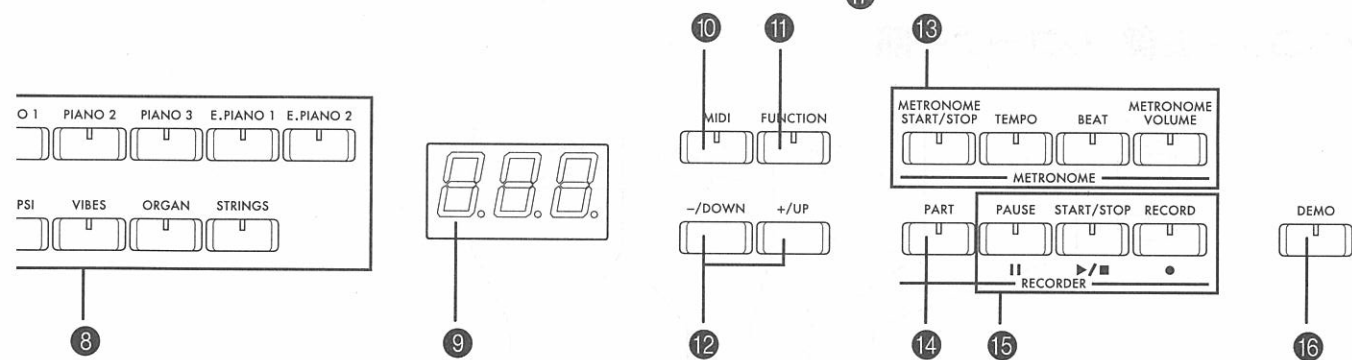
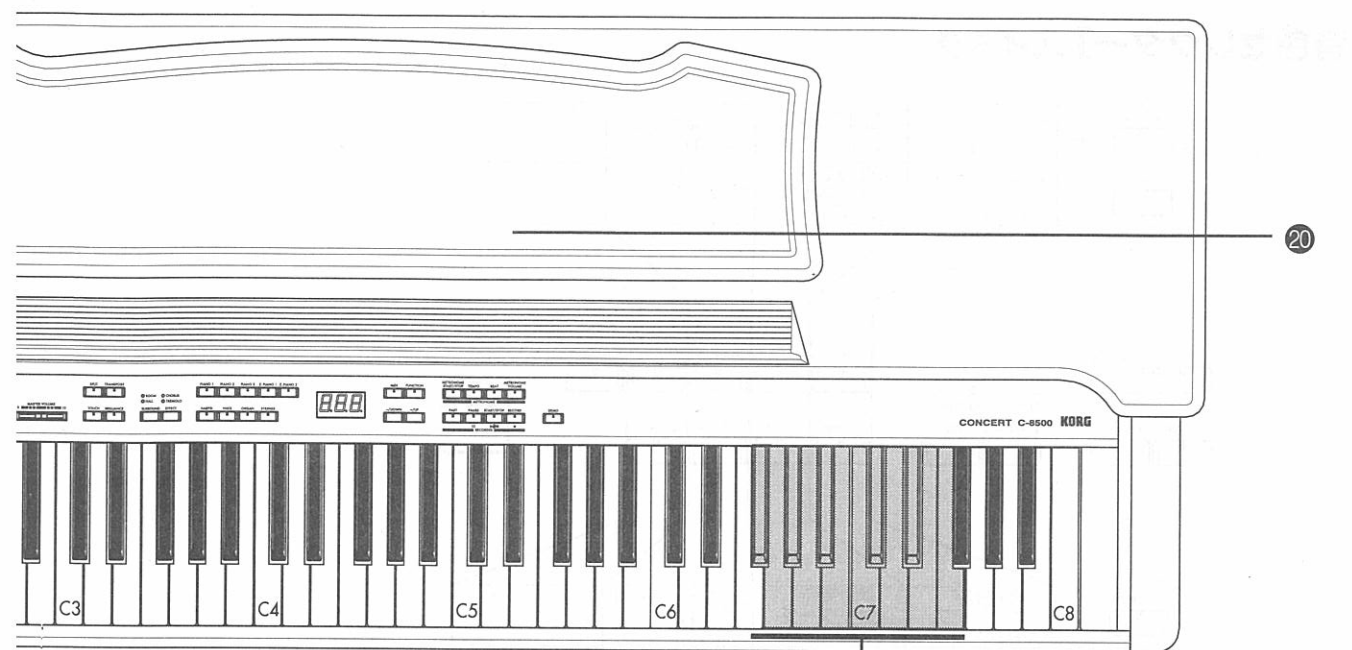
電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使うと接続した機器間で相互にコントロールしあうことができ、本機を16パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

## C-8500各部の名称とその機能



- 1 [POWER] (パワー) スイッチ  
電源をオンまたはオフにします。押すたびにオン、オフが切り替わります。(p.7)
- 2 [MASTER VOLUME] (マスター・ボリューム) スライダー  
スピーカーやヘッドホン、アウトプットから出る音量をコントロールするスライダーです。(p.7)
- 3 [SPLIT] (スプリット) スイッチ  
鍵盤を分割して、2つの音色で演奏するスイッチです。(p.10)
- 4 [TRANSPOSE] (トランスポーズ) スイッチ  
移調を設定するスイッチです。(p.14)
- 5 [TOUCH] (タッチ) スイッチ  
鍵盤のタッチを設定するスイッチです。(p.14)
- 6 [BRILLIANCE] (ブリリアンス) スイッチ  
音色の明るさを設定するスイッチです。(p.12)
- 7 [SURROUND] (サラウンド)、[EFFECT] (エフェクト) スイッチ  
音色にさまざまな効果を加えるスイッチです。(p.12)





⑧ **【音色セレクトター】スイッチ**

音色を選択するスイッチです。同時に2つの音色で演奏（レイヤー、スプリット機能）することもできます。[PIANO 1]、[PIANO 2]、[PIANO 3]、[E.PIANO 1]、[E.PIANO 2]、[HARPSI]、[VIBES]、[ORGAN]、[STRINGS]の9音色から選択できます。（※p.10）

⑨ **LED画面**

テンポや音色番号などを表示します。

⑩ **【MIDI】（ミディ）スイッチ**

主にMIDIのさまざまな設定をするスイッチです。（※p.6）

⑪ **【FUNCTION】（ファンクション）スイッチ**

本機のさまざまな設定をするスイッチです。（※p.6）

⑫ **【+ / UP】、【- / DOWN】スイッチ**

LED画面に表示する、さまざまな値などを設定するスイッチです。

⑬ **メトロノーム操作部**

【METRONOME START/STOP】（メトロノームスタート/ストップ）、【TEMPO】（テンポ）、【BEAT】

（ビート）、【METRONOME VOLUME】（メトロノームボリューム）スイッチ

メトロノームのスタート/ストップや、メトロノームの各値を設定するスイッチです。（※p.13）

⑭ **【PART】（パート）スイッチ**

レコーダー使用時に、パートの番号を選択するスイッチです。

⑮ **レコーダー操作部**

【PAUSE】、【START/STOP】、【RECORD】スイッチ  
演奏を録音/再生するときに使うスイッチです。（※p.17～）

⑯ **【DEMO】（デモ）スイッチ**

本体に内蔵されているデモ演奏を再生するスイッチです。（※p.8）

⑰ **トランスポーズ用鍵盤（F#6～F7）**

トランスポーズ（移調）を設定します。（※p.14）

⑱ **パワーランプ（※p.7）**

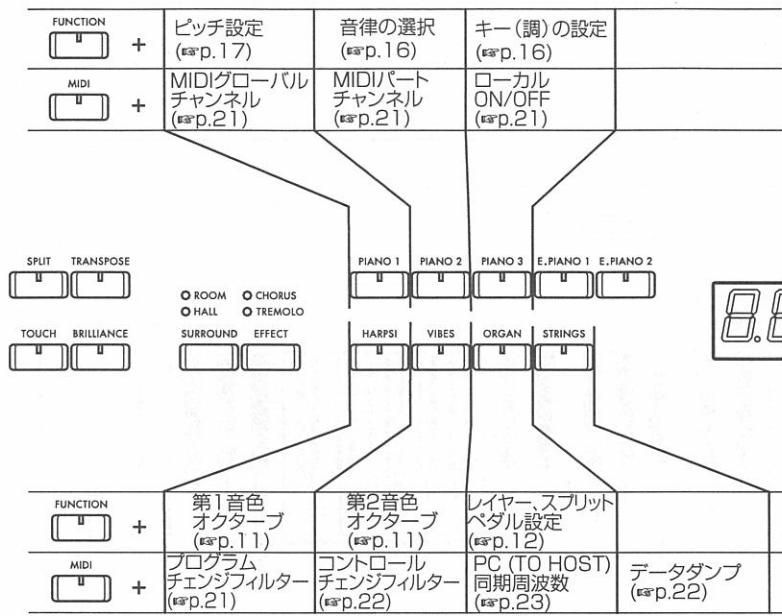
⑲ **PHONES端子（本体底面にあります。）**  
ステレオヘッドホンを接続します。（※p.7）

⑳ **譜面立て（※p.7）**

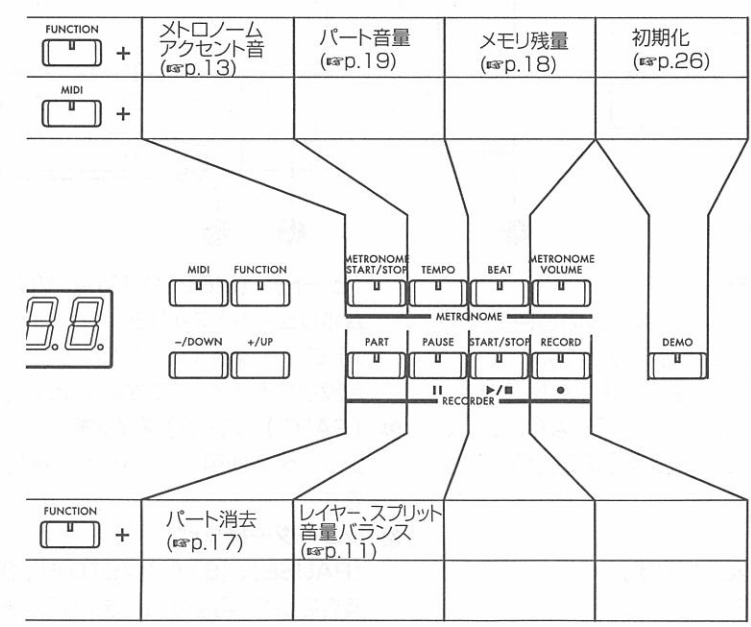
# スイッチの機能

2つのスイッチを同時に押し、設定するスイッチの一覧です。

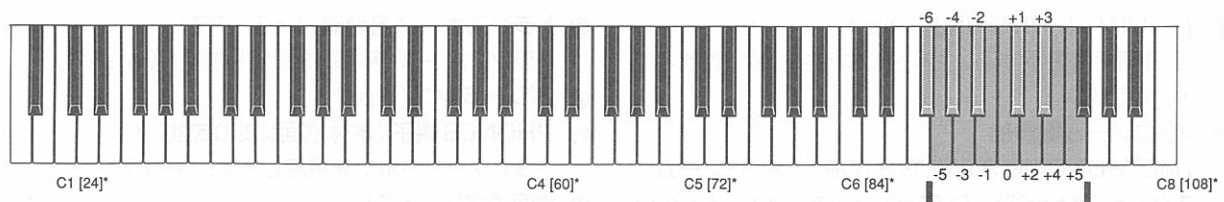
## ○ [音色セクター] スイッチ



## ○ メトロノーム部、レコーダー部



## ○ 鍵盤



\* [ ]内はMIDIノートNo.

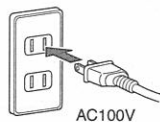
-6 (F#6) ~ +5 (F7)半音  
トランスポーズ (※p.14)

## 演奏するための準備

### 演奏を始める前に

#### 1. 電源コードを差し込みます。

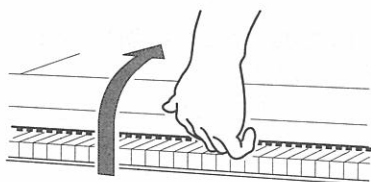
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。  
電源コードの片側は本体背面のソケットに差し込んでください。(p.28参照)



必ずAC100Vの電源コンセントに、差し込んでください。

#### 2. キーカバーを開けます。

へりの中央部分を軽く持ち上げて、支えながら静かに奥の方へスライドさせます。

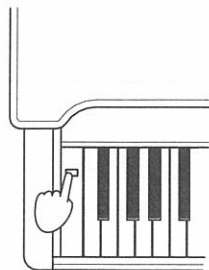


キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、手前へスライドさせます。

- ⚠ キーカバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。
- ⚠ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると、故障の原因になることがあります。
- ⚠ キーカバーを開けるときは、キーカバーの上に紙やコインがないことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。

#### 3. 電源をオンにします。

[POWER] スイッチを押して、電源をオンにします。



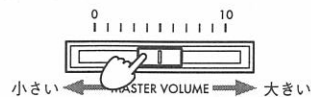
電源をオンにすると、正面左側にあるパワーランプが点灯します。

電源をオフにするときは、もう一度 [POWER] スイッチを押します。

電源をオフにすると、正面左側にあるパワーランプが消灯します。

#### 4. 音量を調節します。

[MASTER VOLUME] スライダーで、本体のスピーカーとヘッドホン端子、リアパネルの [OUTPUT] 端子から出力される音量をコントロールします。



[MASTER VOLUME] スライダーを中程まで上げます。スライダーを右に動かすと音が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。

実際に弾きながら適度な音量に調節してください。

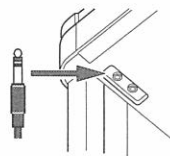
#### ヘッドホンを使うときは

本体左側底面にあるヘッドホン端子に、ステレオヘッドホンのプラグ(標準プラグ)を差し込みます。

ヘッドホン差し込むと、本体のスピーカーからは音が出なくなります。

夜間などの周囲へ伝わる音が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。



- ⚠ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。
- ⚠ ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

#### 譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。



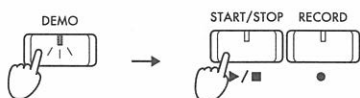
## デモ演奏を聴いてみましょう

本機には音色デモを9曲、ピアノ曲デモを14曲内蔵しています。

デモ演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

### すべてのデモ曲を続けて聴きたいときは

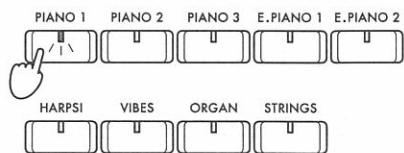
1. [DEMO]スイッチを押します。  
[DEMO]スイッチのランプが点灯し、デモモードになります。
2. [START/STOP]スイッチを押します。  
本機に内蔵しているデモ曲(ピアノ曲デモ、音色デモ)をすべて演奏します。



3. 演奏を止めたいときは、[START/STOP]スイッチを押します。

### 音色デモを聴きたいときは

1. [DEMO]スイッチを押して、デモモードに入ります。  
[DEMO]スイッチの赤のランプが点灯し、[START/STOP]スイッチのランプが点滅して、[音色セクター]スイッチのランプが順番に点灯します。
2. 順番に点灯している[音色セクター]スイッチの中から、聞きたい音色のスイッチを押します。  
デモ演奏が始まります。



選んだ音色デモから順番にくり返し演奏します。

3. 演奏を止めたいときは、[START/STOP]スイッチまたは点灯している[音色セクター]スイッチを押します。
4. デモモードから抜けるときは、演奏を止めて[DEMO]スイッチを押します。  
[DEMO]スイッチのランプが消灯します。



## 音色デモ

### [音色セクター]

1	PIANO1	F.ショパン / 幻想即興曲 Op.66
2	PIANO2	KORGオリジナル / Harmony of Love
3	PIANO3	KORGオリジナル / PANORAMA
4	E.PIANO1	KORGオリジナル / The Harp of Wind
5	E.PIANO2	KORGオリジナル / The Garden
6	HARPSI	J.S.バッハ / イタリア協奏曲 BWV971
7	VIBES	N.リムスキー=コルサコフ / 熊蜂の飛行
8	ORGAN	F.メンデルスゾーン / ウェディング・マーチ
9	STRINGS	J.S.バッハ / G線上のアリア

## ピアノ曲デモ

### LED画面

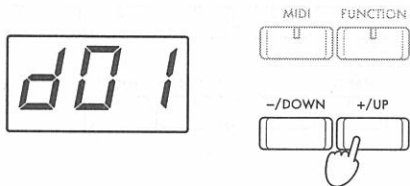
10	d01	L.v.ベートーヴェン / エリーゼのために
11	d02	W.A.モーツァルト / ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」
12	d03	F.ブルグミュラー / ブルグミュラー25のやさしい練習曲より「貴婦人の乗馬」 Op.100-25
13	d04	F.メンデルスゾーン / 春の歌 Op.62-6 無言歌集第6巻より
14	d05	R.シューマン / トロイメライ Op.15-7
15	d06	F.ショパン / 別れの曲 Op.10-3
16	d07	F.ショパン / ワルツ 第6番 変二長調「小犬」 Op.64-1
17	d08	F.ショパン / ノクターン第2番 Op.9-2
18	d09	C.ドビュッシー / アラベスク 第1番
19	d10	C.ドビュッシー / 月の光
20	d11	E.サティ / ジムノペディ第1番
21	d12	J.S.バッハ / 主よ人の望みよ、喜びを
22	d13	A.エルメンライヒ / 紡ぎ歌
23	d14	E.エルガー / 愛の挨拶

## ピアノ曲デモを聴きたいときは

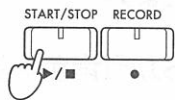
1. [DEMO] スイッチを押して、デモモードに入ります。  
[DEMO] スイッチの赤のランプが点灯し、[START/STOP] スイッチのランプが点滅して、LED画面にはピアノ曲デモの曲番号が点滅表示されます。



2. [+UP] スイッチまたは[-DOWN] スイッチを押して、LED画面に聴きたい曲の番号を表示します。  
LED画面に表示されているデモ曲の番号が点灯表示になります。



3. [START/STOP] スイッチを押すと、デモ曲の演奏が始まります。



4. 演奏を止めたいときは [START/STOP] スイッチを押します。
5. デモモードから抜けるときは、演奏を止めて [DEMO] スイッチを押します。  
[DEMO] スイッチのランプが消灯します。



## デモ曲で演奏練習をする

ピアノ曲デモは、曲に合わせて演奏練習をすることができますように、さまざまな操作をすることができます。

### 右手と左手を別々に練習するときは

ピアノ曲デモは、右手のパートと左手のパートを別々に演奏することができます。

どちらかのパートをデモ演奏させ、もう一つのパートをミュート(消音)して、自分で演奏して練習することができます。

- 練習したいパートをミュート(消音)してください。  
パート1は左手パートを、パート2は右手パートの演奏をしています。  
消音の方法は「パートを消音するときは(マイナスワン演奏)」を参照してください。(p.19参照)  
デモ演奏に戻るときは、[DEMO] スイッチを押してください。

### デモ演奏を一時停止するときは

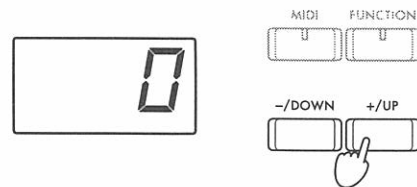
- 演奏中に [PAUSE] スイッチを押すと一時停止します。  
再度 [PAUSE] または [START/STOP] スイッチを押すと続きから演奏を再開します。

### デモ演奏のテンポを変えるときは

1. デモモードで [TEMPO] スイッチを押します。  
[TEMPO] スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のテンポを表示します。



2. [+UP] スイッチまたは[-DOWN] スイッチを押すと、テンポを増減できます。  
このときLED画面に表示される数値は、曲に設定されているテンポに対する比率(%)表示になります。テンポが40~200の範囲を超える比率にはできません。  
[DEMO] スイッチを押すと、もとのデモモードに戻ります。

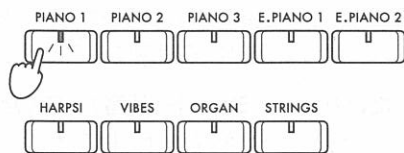




# 弾いてみましょう

## 1. 音色を選ぶ

- [音色セクター]スイッチを押して、弾きたい音色を選びます。  
選んだ[音色セクター]スイッチのランプが点灯します。



音色の内容については下の表をご覧ください。

PIANO 1	ピアノ1:深みと艶があり、華やかに響くグランドピアノの音
PIANO 2	ピアノ2:クリアで明るい感じのグランドピアノの音
PIANO 3	ピアノ3:暖かみと渋さがあり、洗練されたグランドピアノの音
E.PIANO 1	エレクトリックピアノ1:軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
E.PIANO 2	エレクトリックピアノ2:アタック感があって、切れの良いエレクトリックピアノの音
HARPSI	ハーブコード:クラシックな趣のある繊細なハーブコードの音
VIBES	ビブラフォン:まるやかなビブラフォンの音
ORGAN	オルガン:荘厳なパイプオルガンの音
STRINGS	ストリングス:バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

- 🔊 [PIANO 1]の音色では最大同時発音数は64音になります。それ以外の音色では128音です。

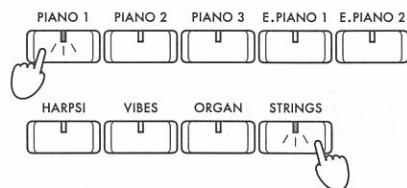
**MeMO** 電源をオンにした直後は、[PIANO 1]の音色が選ばれます。

## 2. 音色を組み合わせる

### 2つの音色を組み合わせて演奏するときは(レイヤー機能)

1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色(たとえば[PIANO 1]と[STRINGS])を同時に鳴らすことができます。これをレイヤー機能といいます。

1. 2つの[音色セクター]スイッチを同時に押します。  
選んだ2つの[音色セクター]スイッチのランプが点灯します。同時発音数は64音(PIANO 1の音色を選んでいるときは42音)になります。



2. レイヤーを解除するときには[音色セクター]スイッチを1つだけ押します。

### 鍵盤の左右にちがう音色を設定して使うときは(スプリット機能)

鍵盤の低音側と高音側に、それぞれちがう音色を設定して演奏することができます。これをスプリット機能といいます。

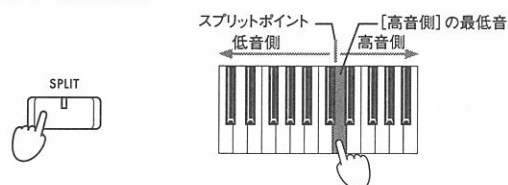
1. [SPLIT]スイッチを押します。  
スイッチを押し続けると現在設定されているスプリット・ポイント(音色の境目)がLED画面に表示されます。低音側はベース音色になります。高音側は[SPLIT]スイッチを押す前の音色になります。スイッチを押す前がレイヤーのときは、第1音色(※p.11参照)になります。

スプリット・ポイント“C4”      スプリット・ポイント“G<sub>4</sub>”



2. [SPLIT]スイッチを押しながら境目にしたい鍵盤を押します。

スプリット・ポイントを変更するには、[SPLIT]スイッチを押しながら、境目にしたい鍵盤を押します。押した鍵盤は高音側になります。設定が終わったらスイッチを放してください。



3. それぞれの音色を選びます。

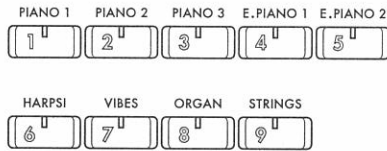
高音側の音色は[音色セクター]スイッチで選択します。  
 低音側の音色をベース音色以外にするときは、高音側の[音色セクター]スイッチを押しながら、低音側を選びたい[音色セクター]スイッチを押しします。  
 [音色セクター]スイッチのランプは両方の音色が点灯します。  
 低音側の音色をベース音色に戻したいときは、低音側選ばれている[音色セクター]スイッチを押ししてください。押したスイッチの音色が高音側になり、低音側はベース音色になります。

4. スプリットを解除するときは、[SPLIT]スイッチを押して、スイッチのランプを消灯させます。

**MeMO** 変更した低音側音色、スプリット・ポイントは記憶されません。

2つの音色の音量バランスを変えるときは

レイヤー機能とスプリット機能では、選んだ2つの音色の音量バランスを変更することができます。  
 レイヤー機能では、下の図のように[音色セクター]スイッチで小さい数字の音色を第1音色、大きい数字の音色を第2音色と呼びます。スプリット機能では、低音側の音色を第1音色、高音側の音色を第2音色と呼びます。



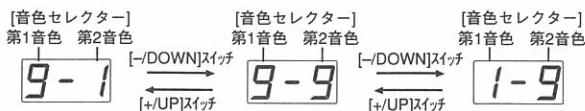
1. [FUNCTION]スイッチを押しながら[PAUSE]スイッチを押します。

[FUNCTION]スイッチのランプが点灯し[PAUSE]スイッチのランプが点滅します。  
 LED画面に音量のバランスが表示されます。



2. [-/DOWN]スイッチまたは[+/UP]スイッチを押して音のバランスを選びます。

[+/UP]スイッチを押すと第1音色が大きくなります。  
 [-/DOWN]スイッチを押すと第2音色が大きくなります。



3. 変更が終わったら、[FUNCTION]スイッチを押します。

LED画面が元の表示に戻ります。

**MeMO** この設定は、レイヤー機能を解除したあとや電源をオフにしたあとも記憶されます。スプリット機能での設定は電源オフにしたあとは記憶されません。

2つの音色のオクターブを変更するときは

1. 第1音色のオクターブを変更するときは、[FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの[HARPSI]スイッチを押します。  
 第2音色のオクターブを変更するには[FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの[VIBES]スイッチを押します。  
 [FUNCTION]スイッチのランプが点灯し、[HARPSI]スイッチ、または[VIBES]スイッチのランプが点滅します。
2. [-/DOWN]スイッチまたは[+/UP]スイッチを押します。  
 ±1オクターブの変更ができます。
3. 変更が終わったら、[FUNCTION]スイッチを押します。  
 LED画面が元の表示に戻ります。

**MeMO** ここでの設定は、レイヤー機能を解除したあとや電源をオフにしたあとも記憶されます。スプリット機能での設定は電源オフにしたあとは記憶されません。

### 3. 音色に効果を加える

#### 音の明るさを調節するときは

音の明るさは音色ごとに設定できます。この設定は変更するまで音色ごとに保存されます。

1. [BRILLIANCE] スイッチを押すと、LED画面に1～5の数字が表示されます。  
[BRILLIANCE] スイッチのランプが点灯します。
2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押して、音の明るさを選びます。  
“1”がもっともやわらかい音で、“5”がもっとも明るい音になります。“3”が標準です。

#### 音に残響を加えるときは

[音色セクター] スイッチで選んだ音色に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをサ라운드効果といいます。サ라운드効果は音色ごとに設定できます。この設定は変更するまで音色ごとに保存されます。

- [SURROUND] スイッチを押して、加えたい効果を選びます。  
押すたびに [SURROUND] スイッチ上のランプが次々に点灯して効果が加わります。

サ라운드	効果の特長
ROOM (ルーム)	小さな部屋の中で、演奏を聴いているときのような響きが得られます。
HALL (ホール)	コンサートホールの客席で、演奏を聴いているときのような響きが得られます。
OFF (オフ)	サ라운드効果はかかりません。(ランプ消灯)

#### 音に広がりを加えるときは

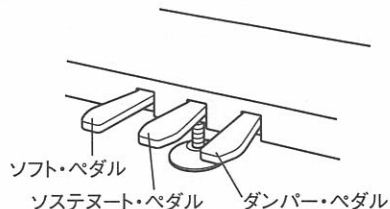
[音色セクター] スイッチで選んだ音色にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これをコーラス・トレモロ効果といいます。コーラス・トレモロ効果は音色ごとに設定できます。この設定は変更するまで音色ごとに保存されます。

- [EFFECT] スイッチを押して、加えたい効果を選びます。  
押すたびに [EFFECT] スイッチ上のランプが次々に点灯して、効果が加わります。

エフェクト	効果の特長
CHORUS (コーラス)	音が広がるような効果が得られます。
TREMOLO (トレモロ)	左右に音が行き交うような効果が得られます。
OFF (オフ)	コーラス・トレモロ効果はかかりません。

### 4. ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能があります。これらの機能を使って、演奏をより効果的に表現することができます。



#### ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフペダル効果)。  
[PIANO1]、[PIANO2]、[PIANO3]の音色のときに[SURROUND]を“OFF”にすると、ペダルを踏み込んだときにアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。

#### ソステヌート・ペダル

ペダルを踏んだときに、押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に、新たに弾いた音には、ダンパー効果はかかりません。

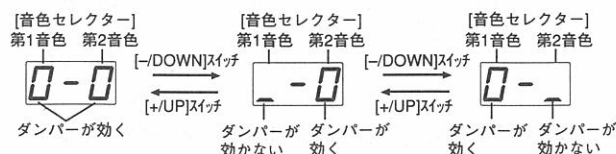
#### ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやわらかさを変化させることができます(ハーフペダル効果)。

#### レイヤー、スプリット時のペダルの設定

レイヤー機能またはスプリット機能を使用しているときに、ダンパー・ペダルの効果を2つの音色のどちらにかけるかを設定します。

1. [FUNCTION] スイッチを押しながら [音色セクター] スイッチの [ORGAN] スイッチを押します。  
[FUNCTION] スイッチのランプが点灯し、LED画面に次のように表示されます。  
LED画面の左が第1音色の設定で、右が第2音色の設定です(※p.11 参照)。  
“0”でダンパーが効き、“\_”はダンパーが効きません。
2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押して、設定を選びます。



3. 変更が終わったら、[FUNCTION] スイッチを押します。  
LED画面が元の表示に戻ります。

**MeMO** 電源をオンにした直後は、2つの音色にダンパー効果がかけられます。

## 5. メトロノームに合わせて演奏する

正確なテンポに合わせて演奏するとき、メトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります (p.17)。

### メトロノームを鳴らすときは

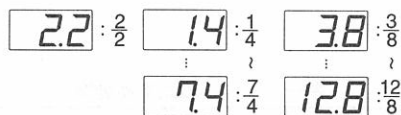
1. [METRONOME START/STOP] スイッチを押します。  
メトロノームがスタートします。
2. メトロノームをストップするときは、もう一度 [METRONOME START/STOP] スイッチを押します。

### テンポを調節するときは

1. [TEMPO] スイッチを押します。  
[TEMPO] スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームのテンポが表示されます。
2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押して、テンポを調節します。  
[+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを1回押すたびに、数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。  
設定できる範囲は ♩ = 40 ~ 200 です。  
また、[TEMPO] スイッチを押しながら [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。

### 拍子を設定するときは

1. [BEAT] スイッチを押します。  
[BEAT] スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在の拍子が表示されます。  
設定できる拍子は、2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、5/8、6/8、7/8、9/8、12/8です。下のように表示されます。



2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押して、拍子を設定します。  
[+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを、1回押すたびに設定が順番に変化します。押し続けると連続的に変化します。

### 音量を調節するときは

1. [METRONOME VOLUME] スイッチを押します。  
[METRONOME VOLUME] スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの音量が表示されます。
2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押して、音量を調節します。  
[+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。設定できる音量は0(最小)~127(最大)です。  
また、[METRONOME VOLUME] スイッチを押しながら [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。

### アクセント音を選択するときは

拍子のアクセント音(強拍)を、ベルの音か、通常のメトロノーム音にするか、またはアクセント音が鳴らない(弱拍のみ)ようにすることができます。

- [FUNCTION] スイッチを押しながら [METRONOME START/STOP] スイッチを押すと、押すたびに設定が次のように切り替わります。  
[FUNCTION] スイッチを押している間、[FUNCTION] スイッチのランプが点灯し、[METRONOME START/STOP] スイッチのランプが設定によって点灯、消灯または点滅します。

アクセント音	ランプ
ベルの音	点灯
通常のメトロノーム音	消灯
アクセント音無し	点滅

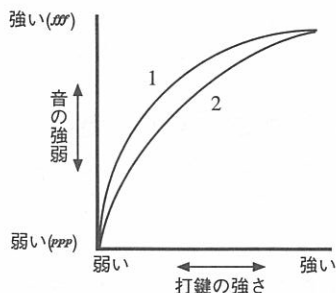
**MeMO** 電源をオンにした直後は、テンポ "120"、拍子 "4/4"、音量 "127" に設定されます。アクセント音については、電源オフ直前の設定を記憶しています。

## 6. 鍵盤のタッチ感を変える

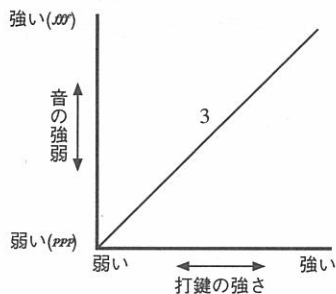
鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチコントロール機能といいます。

1. [TOUCH] スイッチを押します。  
LED画面に現在の設定が表示されます。
2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押してタッチ感を選びます。  
“1” がもっとも軽いタッチで、“5” がもっとも重いタッチになります。“3” が標準です。

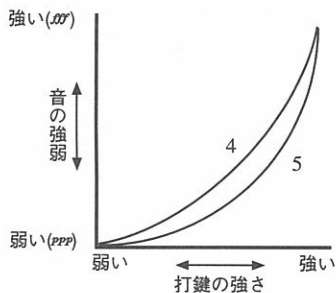
1、2 (LIGHT) 弱く弾いても強音が出せるタッチです。(軽いタッチ)




3 (STANDARD) 通常のピアノタッチです。



4、5 (HEAVY) 強く弾かないと強音が出せないタッチです。(重いタッチ)



 電源をオンにした直後は、自動的に“STANDARD”に設定されます。この機能では鍵盤自体の重さは変わりません。

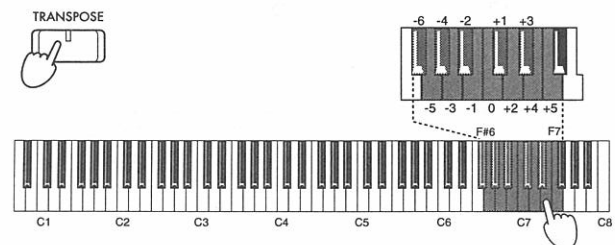
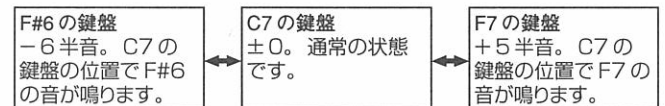
## 7. キーを変更する (移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌にキー (調) が合わせられないときなどに、キーを変える (移調する) ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

1. [TRANSCOPE] スイッチを押します。  
[TRANSCOPE] スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在の設定が表示されます。



2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押す、または [TRANSCOPE] スイッチを押しながら、F#6 ~ F7のいずれかの鍵盤を押して設定します。設定は半音単位で11半音の範囲です。C以外のキーに設定すると、LED画面がキーの設定表示以外のときに [TRANSCOPE] スイッチのランプが点滅して、トランスポーズされたことを示します。



LED	キー	設定する鍵盤
F	F	F7
E	E	E7
E-	E $\flat$ (#D)	D#7
d	D	D7
d-	D $\flat$ (#C)	C#7
C	C	C7
b	B	B6
b-	B $\flat$ (#A)	A#6
A	A	A6
A-	A $\flat$ (#G)	G#6
G	G	G6
G-	G $\flat$ (#F)	F#6

**MeMO** この設定は、電源をオフにすると自動的に解除されます。



例1: 曲の調子を半音上げて演奏するには

- [TRANSPOSE] スイッチを押してから [+ / UP] スイッチを1回押す、または [TRANSPOSE] スイッチを押しながら C # 7 の鍵盤を押します。  
C の鍵盤を押さえたときに C # の音が鳴るようになります。  
このように音を半音上げた場合、左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



例2: キーがB♭の曲をGの指使いに直して演奏するには

- [TRANSPOSE] スイッチを押してから [+ / UP] スイッチを3回押す、または [TRANSPOSE] スイッチを押しながら、D # 7 の鍵盤を押します。  
B ♭ の音は、G の音から見て短3度の (3半音高い) 音にあたります。したがって、C の鍵盤を押したときに、C よりも3半音高い D # の音が出るようにします。

## 8. 音の高さを微調整する (ピッチ調整)

ピッチ (音高) の微調整を行ないます。

他の楽器と合奏するときなどに、楽器間の微妙な音程のずれを調整します。

427.5~452.5Hz (ヘルツ) の範囲で、0.5Hzごとに設定できます。

1. [FUNCTION] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [PIANO1] スイッチを押します。  
[FUNCTION] スイッチのランプが点灯し、[PIANO1] スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在のチューニング値が表示されます。

A4=427.5Hz    A4=440Hz    A4=452.5Hz  
27.5 ~ 40.0 ~ 52.5

2. [+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを押して、ピッチを調整します。  
[+ / UP] スイッチまたは [- / DOWN] スイッチを1回押すたびに、数値が0.5Hzずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。
3. 設定が終わったら、[FUNCTION] スイッチを押します。  
[FUNCTION] スイッチのランプが消灯して、LED画面がもとの表示に戻ります。

**MeMO** 変更したピッチは、電源をオフにしても記憶されます。

## 9. 音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。

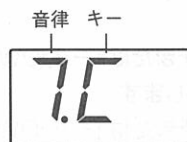
これらの曲の持つ本来の響きを再現するために**キルンベルガー**や、**ヴェルクマイスター**などの古典音律が用意されています。

その他にも、アラビアやインドネシア特有の音律などが用意されています。

### 1. [FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの[PIANO2]スイッチを押します。

[FUNCTION]スイッチのランプが点灯し、[PIANO2]スイッチのランプが点滅します。現在選ばれている音律の番号(0~9)がLED画面に表示されます。

キー(調)の設定が必要な音律には、音律番号の右側にキーが表示されます。



### 2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音律を選びます。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに、値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

### 3. 設定が終わったら、[FUNCTION]スイッチを押します。

[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LED画面がもとの表示に戻ります。

LED 音律名	キー 説明
0. 平均律	鍵盤楽器に最も幅広く用いられている通常の音律です。これは半音階が均等に配列されているため、どのキーでも均一のスケールで演奏することができます。
1. 平均律(ランダム)	平均律のピッチが若干不規則にずれます。音程が自然と不規則になりがちなアコースティック楽器を再現するのに向いています。
2. 純正律長音階	○ “キー”で設定した主調和音のメジャーコードが完全に調和する音律です。
3. 純正律短音階	○ “キー”で設定した主調和音のマイナーコードが完全に調和する音律です。
4. アラビック(1/4)	○ アラビア音楽の1/4トーン音律です。rast do/bayati reにはキーをC(ド)に、rast re/bayati miにはD(レ)、rast fa/bayati solにはF(ファ)、rast sol/bayati laにはG(ソ)、rast si b/bayati doにはA#(ラ#)を設定します。
5. ピタゴラス	○ 古代ギリシャの音律で、メロディー演奏に効果的です。
6. ヴェルクマイスター	○ バロック時代の後期に用いられた平均律的な音律です。

- 7. キルンベルガー ○ 主にハープシコードの調律に用いられている18世紀に考案された音律です。
- 8. スレンドロ ○ 1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、F、G、A(ド、レ、ファ、ソ、ラ)の各鍵を使用します。
- 9. ペロッグ ○ 1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、E、F、G、A、B(ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ)の各鍵を使用します。

**MeMO** 電源をオンにした直後は、平均律になります。

## キー(調)を設定するときは

前の表でキーの項目に“○”がついている音律では、演奏する曲の調に合った“キー”を設定します。

### 1. [FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セクター]スイッチの[PIANO3]スイッチを押します。

[FUNCTION]スイッチのランプが点灯し、[PIANO3]スイッチのランプが点滅します。

LED画面には、現在選ばれている音律の番号とキーが表示されます。

LED	キー	調
C	C	ハ
d-	D b (#C)	変二(嬰ハ)
d	D	二
E-	E b (#D)	変ホ(嬰二)
E	E	ホ
F	F	ヘ
G-	G b (#F)	変ト(嬰ヘ)
G	G	ト
A-	A b (#G)	変イ(嬰ト)
A	A	イ
b-	B b (#A)	変ロ(嬰イ)
b	B	ロ

### 2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音律を選びます。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに、値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

### 3. 設定が終わったら、[FUNCTION]スイッチを押します。

[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LED画面がもとの表示に戻ります。

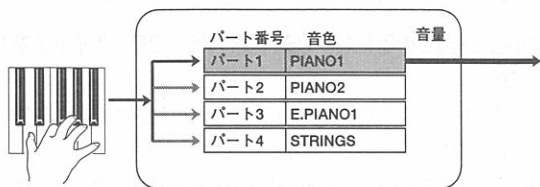
## ストレッチチューニングについて

[PIANO1]、[PIANO2]、[PIANO3]では、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整されています。

# 演奏を録音/再生してみよう

## 1. 演奏を録音する

本機のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。4つのパートに演奏を録音できます。それを同時に再生し1曲の曲を演奏したり、4曲別々に録音することもできます。



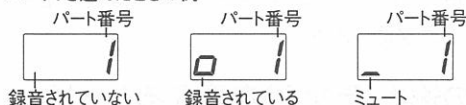
### 演奏を録音するときは

#### 1. [PART] スイッチを押します。

[PART] スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(1~4)が表示されます。

パート番号の左側には、そのパートの状態が表示されます。

パート1を選んだときの例



#### 2. [+UP] スイッチまたは [-/DOWN] スイッチを押して、録音するパートを選びます。

#### 3. [音色セクター] スイッチで音色を選びます。

再生時には、ここで選んだ音色が選ばれます。

レイヤーまたはスプリットにして録音するときは、p.10をご覧ください。

録音が始まってから [音色セクター] スイッチを押して音色を切り替えることもできます。

音色を切り替えながら録音すると、音色の切り替えもデータとして記録され、再生するときに音色が切り替わります。

🔍 シングルまたはレイヤーとスプリットの切り替えはできません。

レイヤー、スプリット時は、オクターブの設定は“0”、ペダルの設定は2つの音色とも“イネーブル”に固定で録音します。スプリット時の録音ではスプリットポイントは“Gb3”に固定で録音します。

#### ● メトロノームに合わせて演奏を録音するときは

[METRONOME START/STOP] スイッチを押して、メトロノームを鳴らしてください。

必要に応じて拍子、テンポやボリュームを調節してください(※p.13参照)。

#### 4. [RECORD] スイッチを押します。

[RECORD] スイッチのランプが点灯し、録音待機の状態になります。



録音待機

#### 5. 鍵盤を押すか、[START/STOP] スイッチを押すと、録音が始まります。

鍵盤を押すと、同時に録音が始まります。

[START/STOP] スイッチを押すと、2小節のカウント後、録音が始まります。

このほか、ペダルを操作したり、MIDIメッセージを受信しても、録音を開始します。

録音している間は、[START/STOP] スイッチのランプがテンポに合わせて点滅し、拍子の頭では赤色に、それ以外では緑色になります。

🔍 録音中は電源をオフにしないでください。

#### 6. 録音を終えるときは、[START/STOP] スイッチを押します。

[START/STOP] スイッチのランプと [RECORD] スイッチのランプが消灯し、自動的に最初の小節に移動します。

[PAUSE] スイッチを押すと、スイッチを押した位置で停止し、[PAUSE] ランプは点灯します。[RECORD] スイッチを押してから鍵盤を弾くと、録音を再開します。

メトロノームを止めるときは、[METRONOME START/STOP] スイッチを押してください。

🔍 パートの先頭から録音すると上書きされて、以前の演奏データは消去されます。

🔍 一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。

### パートを消去するときは

#### 1. [FUNCTION] スイッチを押しながら [PART] スイッチを押します。

[FUNCTION] スイッチのランプが点灯し、[PART] スイッチのランプとLED画面のパート番号が点滅します。

#### 2. [+UP] スイッチまたは [-/DOWN] スイッチを押して、消したいパート番号を選びます。

すべてのパートを消去したい場合は“ALL”を選んでください。

**ALL**: すべてのパートを消去


#### 3. [PART] スイッチを押して、パートのデータを消去します。

[FUNCTION] スイッチのランプが消灯し、LED画面のパート番号が点灯します。

パートのデータを消したくない場合は [FUNCTION] スイッチを押してください。


録音可能なメモリーの残量を確認するときは本体のレコーダーの録音できる容量を、パーセントで表示します。

- **[FUNCTION] スイッチを押しながら [BEAT] スイッチを押します。**  
[FUNCTION] スイッチのランプが点灯し、[BEAT] スイッチのランプが点滅します。LED画面に現在のレコーダーのメモリー残量が“00”～“99”の範囲で表示されます。録音中に録音できる領域がメモリーの残り10パーセント以下(録音できる音数が1400ノート未満になったときや、録音した小節が900小節[最大999小節録音可]を越えたとき)になると[RECORD] スイッチのランプが点滅します。

 メモリー残量が少なくなると、録音ができなくなります。メモリー残量が少なくなったら、外部のMIDIデータファイラー等にデータを保存してから、本体内のパートを消去してください。

## 2. 演奏を再生する

録音した演奏を再生するときは


1. **[START/STOP] スイッチを押します。**  
演奏が始まります。  
再生しているときは[START/STOP] スイッチのランプがテンポに合わせて点滅します。
2. **再生を停止するには、[START/STOP] スイッチを押します。**  
[START/STOP] スイッチのランプが消灯し、自動的に最初の小節に戻ります。  
また、データがすべて再生し終わったときも同様に再生が停止して、最初の小節に戻ります。  
再生中に[PAUSE] スイッチを押すと、一時停止することができます。再度[PAUSE] スイッチまたは[START/STOP] スイッチを押すと、続きから演奏を再開します。  
 再生している曲の途中で[PAUSE] スイッチを押して、一時停止した位置から録音に切り替えたときは、一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。

演奏の速さ(テンポ)を変えるときは

1. **演奏中、または止まっているときに[TEMPO] スイッチを押します。**  
[TEMPO] スイッチのランプが点灯して、LED画面がテンポの増減表示になります。
2. **[+/UP] スイッチまたは[-/DOWN] スイッチを押すと、テンポを増減できます。**  
LED画面に表示されているテンポを変更します。(p.13)  
曲のテンポを変更してもピッチ(音の高さ)は変化しません。

音色を変えるときは

録音したときと違う音色で、演奏を再生することができます。

- **そのパートで再生したい音色を、演奏中に[音色セクター] スイッチを押して選びます。**  
ただし、録音中に[音色セクター] スイッチを押して音色を切り替えた場合は、その位置で自動的に録音中に選んだ音色に切り替わります。  
 現在選んでいるサラウンド、エフェクトの効果がすべてのパートにかかります。

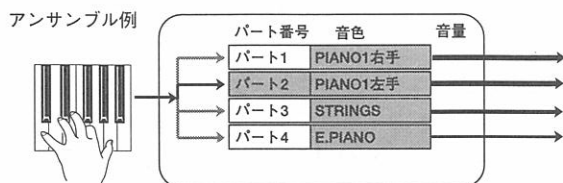
演奏を繰り返し聴くときは

- **再生中に[FUNCTION] スイッチを押します。**  
[FUNCTION] スイッチのランプが点滅して、くり返し再生されます。  
[START/STOP] スイッチを押して停止すると、くり返し再生も解除されます。

### 3. アンサンブルを楽しむ

すでに録音したパートを再生しながら、新たに別のパートに演奏を録音することができます。

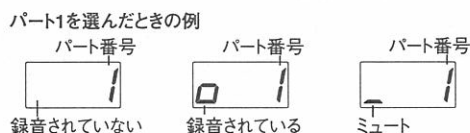
右手と左手の演奏を、片方ずつ別々のパートに録音したり、ストリングスなどの演奏を各パートに録音して、多彩なアンサンブルを楽しむことができます。



#### 別のパートに録音するときは

##### 1. [PART] スイッチを押します。

[PART] スイッチのランプが点灯し、LED画面には現在のパート番号(1~4)と、そのパートの状態が表示されます。



##### 2. [+UP] スイッチまたは[-/DOWN] スイッチを押して、録音されていないパートを選びます。

「1.演奏を録音します」(p.17)の操作「3」からを参照して、すでに録音を済ませた演奏を聴きながら追加するパートを録音してください。

#### パートごとの音量を調節するときは

複数パートのそれぞれの音量を調節して、演奏のバランスを整えます。

##### 1. [PART] スイッチを押します。

[PART] スイッチのランプが点灯します。

##### 2. [+UP] スイッチまたは[-/DOWN] スイッチを押して、音量を調節するパートを選びます。

##### 3. [FUNCTION] スイッチを押しながら [TEMPO] スイッチを押します。

[FUNCTION] スイッチのランプが点灯し、[TEMPO] スイッチのランプが点滅します。

LED画面には、現在のパートの音量が0(最小)~127(最大)で表示されます。

##### 4. [+UP] スイッチまたは[-/DOWN] スイッチを押して、音量を調節します。

[TEMPO] スイッチを押しながら [+UP] スイッチまたは [-/DOWN] スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。

##### 5. 設定が終わったら [FUNCTION] スイッチを押します。

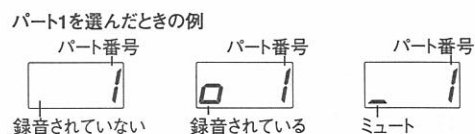
#### パートを消音するときは(マイナスワン演奏)

録音済みのパートの演奏をミュート(音を一時的に消す)して、演奏することができます。

これをマイナスワン演奏といいます。この操作は一時的に音を消すためのもので「パートを消去するには」(p.17参照)のように永久的にデータを失うものではありません。

##### 1. [PART] スイッチを押します。

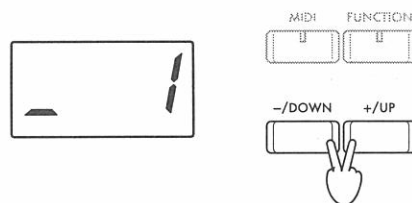
[PART] スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(1~4)とそのパートの状態が表示されます。



##### 2. [+UP] スイッチまたは[-/DOWN] スイッチを押して、ミュートしたいパートを選びます。

##### 3. [+UP] スイッチと[-/DOWN] スイッチを同時に押して、パートをミュートします。

LED画面の表示が図のように変わり、演奏データを再生すると、このパートは再生されません。



##### 4. ミュートを解除するには、もう一度 [+UP] スイッチと [-/DOWN] スイッチを同時に押します。

LED画面の表示と音量が、ミュート前の状態に戻ります。



## 他の機器との接続

### 1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続

本機にシンセサイザーやオーディオ機器を接続して、本体のスピーカーから音を出したり、演奏をテープレコーダーなどに録音することができます。

#### INPUT 端子 (L/MONO、R)

シンセサイザーなど他の楽器やオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本機の内蔵スピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した楽器やオーディオ機器のボリュームで調節してください。

#### OUTPUT 端子 (L/MONO、R)

オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するときに使用する端子です。音量は本機の[MASTER VOLUME]スライダーで調節してください。

#### MIDI 端子 (IN、OUT)


シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどのMIDI機器と接続して、情報を交換するための端子です。次の「2. MIDI機器との接続」をご覧ください。

#### PC (TO HOST) 端子

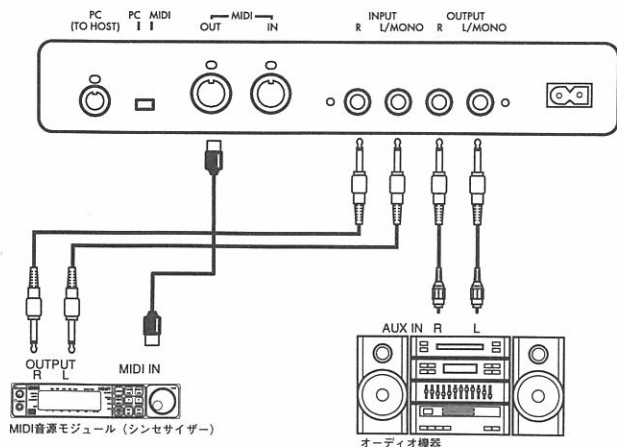
パソコンを接続する端子です。詳しくはp.23を参照してください。

#### PC/MIDI切替スイッチ

MIDI端子を使うか、PC (TO HOST) 端子を使うかを切り替えるスイッチです。

 PC/MIDI切替スイッチは、必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。

PC端子とMIDI端子を、両方同時に使用しないでください。必ずPC/MIDI切替スイッチで設定した端子だけを使用してください。両方の端子を使用したり、設定と異なる端子を使用した場合、本機と接続されている機器が誤動作する恐れがあります。



## 2. MIDI 機器との接続

### MIDI (ミディ) とは？

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。


本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールすることができます。

また、他のMIDIキーボードやシーケンサー (自動演奏装置) から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。その他にも、本機のレコーダーのデータを保管するときにも、MIDIを使っています。

ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、MIDIについてわかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

### MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

 PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしたときは、必ずMIDIケーブルでMIDI端子へ接続してください。PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているときは、いったん本機の電源をオフにして、PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしてください。

#### MIDI IN 端子

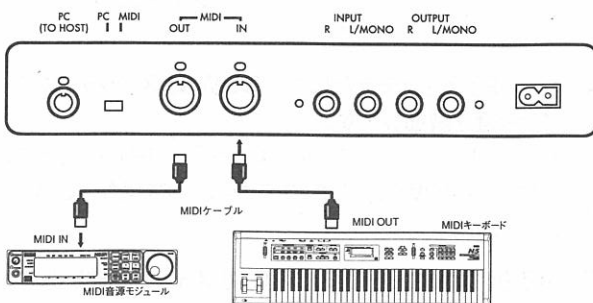
MIDI情報を受信します。

外部MIDI機器 (MIDIキーボードやシーケンサーなど) で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

#### MIDI OUT 端子

MIDI情報を送信します。

本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。



## MIDIチャンネル

MIDI機器との接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

1. MIDIチャンネルを変更するパートを選びます。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[音色セレクター]スイッチの[PIANO2]スイッチを押します。
3. [+ / UP]スイッチまたは[- / DOWN]スイッチを押して、MIDIチャンネルを変更します。
4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチを押します。

## 本機をマルチティンバー音源として使うには

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パートマルチティンバー音源として動作します。

1. 本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。  
MIDI受信チャンネルと本機の音色は次のように対応します。  
接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。  
演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます(※p.29)。ただし、該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定できます。

## グローバルMIDIチャンネルの変更

システム・エクスクルーシブ・メッセージを送受信するときは、グローバルのチャンネルで行います。

本機ではデータダンプ(※p.23参照)を行うときにグローバルMIDIチャンネルで送受信します。グローバルMIDIチャンネルは次のように設定します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら[音色セレクター]の[PIANO1]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PIANO1]スイッチのランプが点滅します。  
LED画面にグローバルMIDIチャンネルが表示されます。
2. [+ / UP]スイッチまたは[- / DOWN]スイッチを押して、グローバルMIDIチャンネルを設定します。
3. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチと[PIANO1]スイッチのランプが消灯します。

## ローカルオン・オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合に本機をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

- [MIDI]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチの[PIANO3]スイッチを押します。  
押すたびにオン/オフが切り替わります。

---

ローカルオン	[PIANO3]のランプ点灯
--------	----------------

ローカルオフ	[PIANO3]のランプ消灯
--------	----------------

---

**MeMO** 電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

## プログラムチェンジ

接続しているMIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えたり、接続しているMIDI機器から本機のプログラム番号を切り替えます。

### プログラムチェンジの送信

接続している外部MIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えます。

- [音色セレクター]スイッチで音色を選ぶとp.29にある表のようにMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。

### プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、p.29の表のように本機のティンバー音色が切り替わります。

**MeMO** 本機は、0～125のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より126以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

### プログラムチェンジキャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

- [MIDI]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチの[HARPSI]スイッチを押します。  
押すたびにイネーブル、キャンセルが切り替わります。

---

イネーブル	[HARPSI]のランプ点灯
-------	----------------

キャンセル	[HARPSI]のランプ消灯
-------	----------------

---

プログラムチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた

場合でも、1chのプログラムチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

**MeMO** 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。


## コントロール・チェンジ

本機のダンパーペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からダンパーペダルなどの情報を受信して本機をコントロールします。これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

- [MIDI] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [VIBES] スイッチを押します。  
押すたびにイネーブル、キャンセルが切り替わります。

イネーブル	[VIBES] のランプ点灯
キャンセル	[VIBES] のランプ消灯

コントロールチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのコントロールチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

 外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更 (p.12「レイヤー、スプリットにおけるペダルの設定」参照) に関係なくレイヤー機能またはスプリット機能においても、つねに両方の音色に対して有効となります。

**MeMO** 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

## 外部シーケンサーを同期させる


本機のレコーダーに合わせてMIDIで接続した外部シーケンサーやリズムマシンなどを同時に演奏 (同期) させることができます。

本機は、マスター機 (コントロールする機器) として働きますので、接続したシーケンサーなどはスレーブ機 (コントロールされる機器) となります。

1. 本機のMIDI OUTとシーケンサーなどのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどをスレーブ機として設定します。  
接続するMIDI機器のMIDIクロックなどの設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。
3. 本機の [START/STOP] スイッチを押して同期演奏をさせます。  
本機から出力されるMIDIクロック (テンポを合わせるための信号) は、テンポの設定に従います。


## レコーダーのデータを保存するには (データダンプ)

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー (記憶装置) に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

 データファイラーの取扱説明書をよくお読み、データを消してしまわないように十分注意してください。


### ● 演奏データをデータファイラーに保管します

1. 本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーを操作して本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
3. 本機の [MIDI] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [STRINGS] を押します。  
[MIDI]、[STRINGS] のランプが点滅し、データダンプ送信待ちの状態になります。
4. [START/STOP] スイッチを押します。  
データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間、[START/STOP] スイッチのランプが点滅します。  
送信が終了すると、[START/STOP] スイッチのランプが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

 データダンプ送信待ちの状態やデータファイラーに演奏データを送信している間は本機から音は出ません。データの送信が終わり、データファイラーにデータが記録されると通常の演奏できる状態に戻ります。

### ● 演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します


1. 本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. 本機の [MIDI] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの [STRINGS] スイッチを押します。  
[MIDI]、[STRINGS] のランプが点滅し、データダンプ受信待ちの状態になります。
3. データファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいた本機の演奏データを送信します (データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください)。  
本機が演奏データを受信します。受信中には [RECORD] スイッチのランプが点滅します。  
演奏データの受信が終了すると、[RECORD] スイッチのランプが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。


 データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音は出ません。データの受信が終り、演奏データが本機のリコーダー内に元どおりに正しく納められると、通常の演奏できる状態に戻ります。


### 3. コンピュータとの接続

本機は、コンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータで本機を鳴らしたり、本機でのキーボード演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様に行えます。

本機は、IBM PC互換機、Apple Macintosh、PC-9800シリーズのコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。

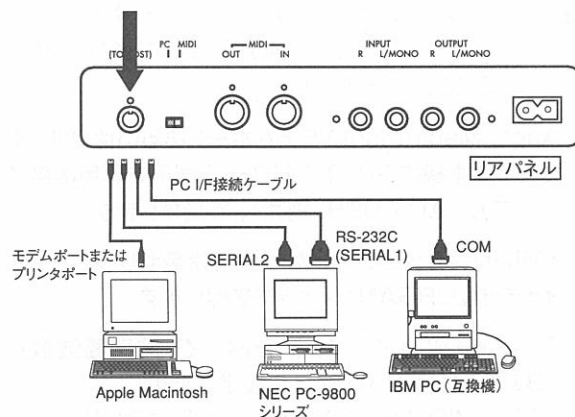
 PC/MIDI切替スイッチは、必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。

 PC/MIDI切替スイッチをPC側にしたときは、必ず専用PC I/F接続ケーブルでPC (TO HOST) 端子へ接続してください。

 本機では、PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にすると、自動的に同期周波数が31.25kbpsに設定されます。その後、PC/MIDI切替スイッチをPC側にしても31.25kbpsのままです。必要に応じて設定しなおしてください。

#### PC (TO HOST) 端子

コンピュータから本機をコントロールしたり、本機からコンピュータへMIDI情報を送ることができます。本機のPC (TO HOST) 端子とコンピュータをそれぞれのコンピュータ用のPC I/F接続ケーブルで接続します。



## IBM PC互換機との接続


接続キットAG-001B (接続ケーブル/ドライバーソフト“KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

1. IBM PC互換機のシリアルポート (COMポート) と本機のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-001B [別売]) で接続します。  
コンピュータのシリアルポートが25ピンの場合、9ピン-25ピン変換アダプターをご利用ください。
2. [MIDI] スイッチを押しながら [音色セレクトター] スイッチの [ORGAN] スイッチを押します。
3. [+ / UP] スイッチを押して、同期周波数を “38.4” (38.4kbps) に設定します。
4. Windows でお使いになる場合は KORG MIDI Driver をインストールします。  
インストールの方法は別紙をご覧ください。

## Apple Macintosh シリーズとの接続

接続キットAG-002B (接続ケーブル/ドライバーソフト“KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

 シリアル・ポート (モデム/プリンタ) を持たない Macintosh では、TO HOST 端子に接続して使用することができません。

1. Apple Macintosh のモデムポートあるいはプリンタポートと本機のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-002B [別売]) で接続します。
2. [MIDI] スイッチを押しながら、[音色セレクトター] スイッチの [ORGAN] スイッチを押します。
3. [- / DOWN] スイッチを押して、同期周波数を “31.2” (31.25kbps) に設定します。  
KORG MIDI Driver をお使いになる場合は別紙をご覧ください。

## NEC PC-9800 シリーズとの接続

### RS-232C (SERIAL1) を利用する場合

接続キットAG-003B (接続ケーブル/ドライバーソフト“KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション (シーケンサー) の種類によっては、ご使用になれませんので注意してください。

アプリケーション (シーケンサー) は RS-232C/MIDI 変換アダプターの使用できるもの、または Windows に対応しているものにかぎります。

1. NEC PC-9800 シリーズの RS-232C (SERIAL1) 端子と本機のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-003B [別売]) で接続します。

2. [MIDI] スイッチを押しながら [音色セレクトター] スイッチの [ORGAN] スイッチを押します。
3. [- / DOWN] スイッチを押して、LED 画面の数値を “31.2” (31.25kbps) に設定します。
4. MS-DOS 上のアプリケーション (シーケンサー) をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI 変換アダプターモードに設定します。  
また、Windows でお使いになる場合は KORG MIDI Driver をインストールします。  
インストールの方法は別紙をご覧ください。

### SERIAL2 を利用する場合

接続キットAG-001B (接続ケーブル/ドライバーソフト“KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

1. NEC PC-9800 シリーズの SERIAL2 端子と本機のPC (TO HOST) 端子を、専用の接続ケーブル (AG-001B [別売]) で接続します。
2. [MIDI] スイッチを押しながら [音色セレクトター] スイッチの [ORGAN] スイッチを押します。
3. [+ / UP] スイッチを押して、同期周波数を “38.4” (38.4kbps) に設定します。
4. Windows でお使いになる場合は、KORG MIDI Driver をインストールします。  
インストールの方法は別紙をご覧ください。



## 故障とお思いになる前に

### 電源が入らない

- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？ (p.7)
- 電源コードが本体に差し込まれていますか？ (p.28)
- 電源スイッチがオンになっていますか？ (p.7)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。

### 音が出ない

- [MASTER VOLUME] スライダーが上がっていますか？ (p.7)
- ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？ (p.7)
- 現在選んでいるパートの音量が“0”になっていませんか？ (p.19)
- 現在選んでいるパートがミュートされていませんか？ (p.19)
- ローカルオンになっていることを確認してください。 (p.21)

### 音が途切れてしまう

- 本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によっては、1つの鍵盤を押すとサンプリングデータの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。[PIANO 1]の音色は2つのデータを鳴らしますが、このような音色を選ぶとダンパー・ペダルを踏んでいるときも含め最大同時発音数は64音となります。それ以外の音色では最大同時発音数は128音となります。この最大同時発音数を越えたときに、音が途切れてしまいます。また、レイヤーやスプリットにして同時に2つの音色を鳴らすとき、サンプリングデータを1つ使っているか2つ使っているかで最大同時発音数は異なってきます。たとえばサンプリングデータを1つ鳴らす音色と2つ鳴らす音色を組み合わせると、最大同時発音数は42音となります。レイヤー、スプリットや、レコーダーに複数のパートを録音する場合は音色の組み合わせを上手に選んでください。

### 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

### ペダルの効果が正しくかからない

- 電源オン時や、設定の初期化を行ったときにペダルを踏みませんでしたか？ (p.12)
- ペダル用コネクタがはずれていませんか？ (p.28)

### 録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか？ (p.18)

### 送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルや、PC専用接続ケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。 (p.21)
- 受信機器と同じチャンネルで本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。 (p.21)
- MIDIチャンネル(パート、グローバル)は合っていますか？ (p.21)

### 同期周波数が設定できない

- PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっていませんか？ (P.20)MIDI側にすると常に31.25kbpsに設定されます。

## LED画面のメッセージ



内蔵バックアップバッテリーの電圧が低下しています。

最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせください。

この表示は、いずれかのスイッチを押すと解除します。

## 設定の初期化

パートの音色、MIDIチャンネルの設定と、ペダルの設定を初期化することができます。

パートのMIDIチャンネルを変更したり、外部シーケンサーで演奏データを読み込んだりして音が思うとおりに設定できなくなったときや、ペダルが正しく効かないときは、初期化してください。

- [FUNCTION] スイッチを押しながら、[DEMO] スイッチを同時に押すと、[DEMO] スイッチのランプが点滅します。

ここで [DEMO] スイッチを押すと初期化します。

[FUNCTION] スイッチを押すと初期化は行いません。

- 初期化するときには、ペダルを踏まないでください。

## 仕様

鍵盤	88鍵 (A0~C8) リアル・ウエイトド・ハンマー・アクション鍵盤
音色	10音色: ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハーブシコード、ビブラフォン、オルガン、ストリングス、ベース (スプリット時のみ)
音源システム	HIシンセシスシステム
最大同時発音数	128音 (モノラル)、64音 (ステレオ)
効果	サラウンド (ルーム、ホール)、エフェクト (コーラス、トレモロ)
レコーダー	4パート (最大記憶容量 14,000ノート) レコード、スタート/ストップ、ポーズ
キーボード・モード	シングル、レイヤー、スプリット
音律	10
タッチ・コントロール	5段階
コントロール	パワースイッチ、マスターボリュームスライダー、トランスポーズ、ファンクションスイッチ、音色セレクター、テンポ、メトロノームスイッチ、デモスイッチ、PC/MIDI切替スイッチ
ディスプレイ	8セグメントLED×3
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート (*印: ハーフペダル対応)
接続端子	PHONES×2、INPUT (L/MONO、R)、OUTPUT (L/MONO、R)、MIDI (IN、OUT)、PC (TO HOST)
メインアンプ	40W×2
スピーカー	13cm×2、5cm×2 キャビネット一体型構造バスレフ・システム
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	65W
外形寸法	1430(W)×526(D)×890(H)mm
重量 (スタンド含)	60.5kg
付属品	ヘッドホン、高低自在椅子、電源コード、専用スタンド
オプション	AG-001B、AG-002B、AG-003B接続キット

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・ MIDIおよびGENERAL MIDIは社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。

・ その他の商品名、社名は、各社の登録商標および商標です。

・ Sound Processed with INFINITY™

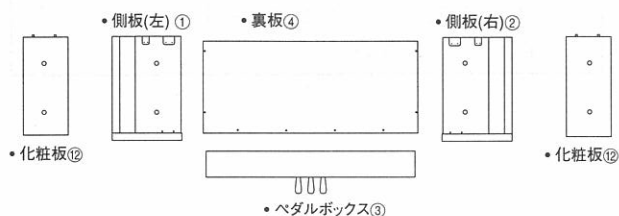
# スタンドの組み立て方

## ⚠ 注意

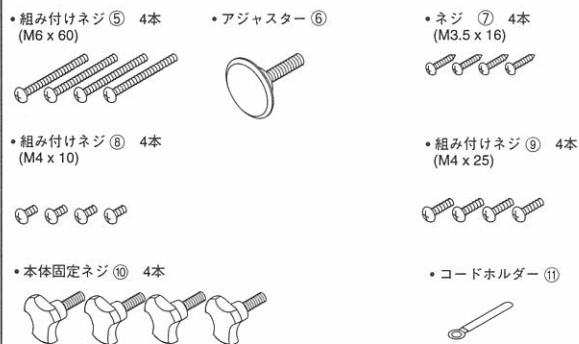
- ・ 本体組み付けは二人以上で行ってください。
- ・ 本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、注意してください。
- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。

### 1. 箱をあけて部品を取り出します。

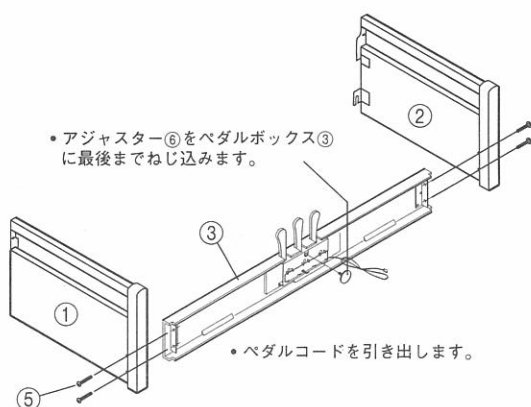
下記部品が揃っているのを確認してください。  
組み立てのために、お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意してください。



#### ○ ビニール袋詰め



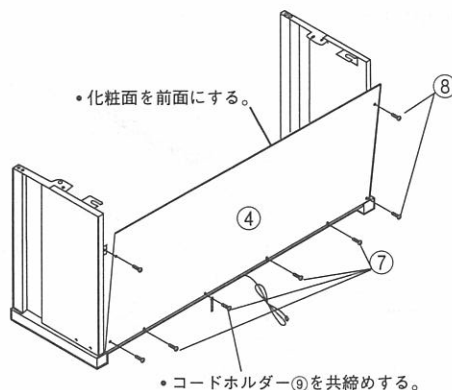
### 2. 側板(左)①と側板(右)②をペダルボックス③に組み付けネジ⑥4本で組み付けます。



### 3. 裏板④を組み付けます。

ネジ⑦4本で裏板④の下側を、ネジ⑧4本で裏板④の側板側を固定します。

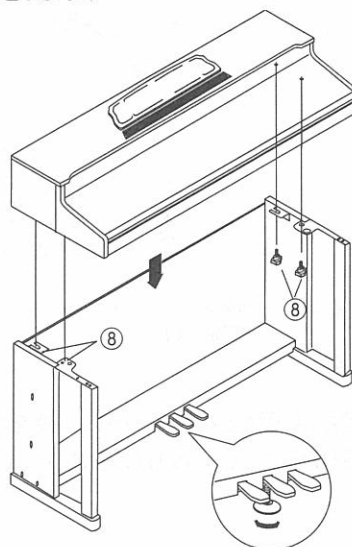
ネジ⑦1本でコードホルダーを共締めします。



○ ここでスタンドに隙間やかたむきがないことを確認してください。

### 4. 本体を組み付けます。

本体底面のプラスチック製の足を側板のブラケットの穴に入るようにのせます。本体固定ネジ⑩4本で下方から固定します。

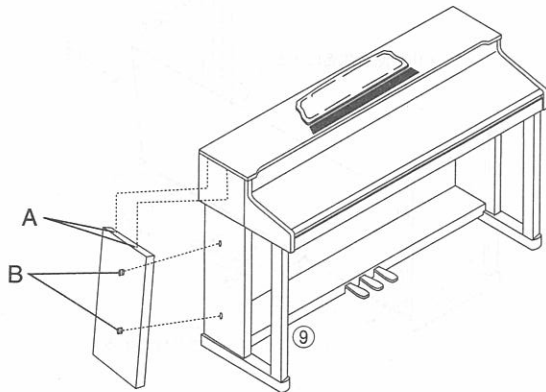


⚠ アジャスターを回して、アジャスターが床にしっかり当たるように調節してください。  
アジャスターが床にしっかり当たらないとペダルがぐらつき故障の原因になります。

### 5. 化粧板⑫を側板に取り付けます。

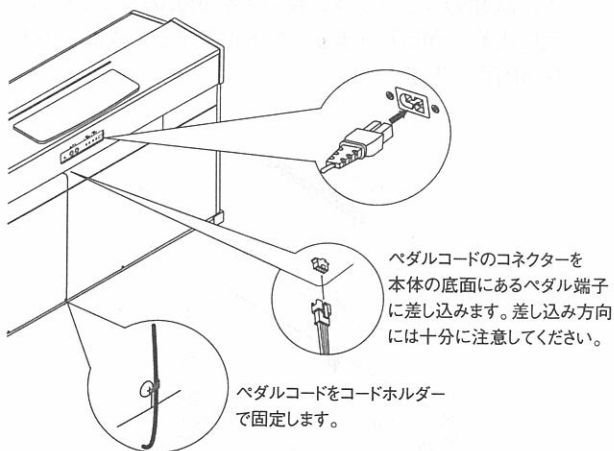
本体のルーフボードの裏面の穴に、化粧板⑫のガイドピンAを差し込み化粧板⑫のガイドピンBが側板の穴に入るように取り付けます。


スタンド内側からネジ⑨で固定します。化粧板に左右はありません。



### 6. ペダルコードと電源コードを接続、固定します。

本体付属の電源コードを本体背面のソケットに接続します



 設置場所は背面の電源コードに負荷をかけないように、壁からはなして設置してください。

### 組立後のチェック

- 部品は余っていませんか?  
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- 取付ネジのゆるみを確認してください。

## 注意

#### 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。

#### ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

#### 分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

# C-8500 Program List

No. : MIDI Program Number

## シングル

000	Piano1
001	Piano2
002	Piano3
003	E.PIANO1
004	E.PIANO2
005	Harpsi
006	Vibes
007	Organ
008	Strings

## レイヤー

009	Piano1 + Piano2
010	Piano1 + Piano3
011	Piano1 + E.PIANO1
012	Piano1 + E.PIANO2
013	Piano1 + Harpsi
014	Piano1 + Vibes
015	Piano1 + Organ
016	Piano1 + Strings
017	Piano2 + Piano3
018	Piano2 + E.PIANO1
019	Piano2 + E.PIANO2
020	Piano2 + Harpsi
021	Piano2 + Vibes
022	Piano2 + Organ
023	Piano2 + Strings
024	Piano3 + E.PIANO1
025	Piano3 + E.PIANO2
026	Piano3 + Harpsi
027	Piano3 + Vibes
028	Piano3 + Organ
029	Piano3 + Strings
030	E.PIANO1 + E.PIANO2
031	E.PIANO1 + Harpsi
032	E.PIANO1 + Vibes
033	E.PIANO1 + Organ
034	E.PIANO1 + Strings
035	E.PIANO2 + Harpsi
036	E.PIANO2 + Vibes
037	E.PIANO2 + Organ
038	E.PIANO2 + Strings
039	Harpsi + Vibes
040	Harpsi + Organ
041	Harpsi + Strings
042	Vibes+ Organ
043	Vibes+ Strings
044	Organ+ Strings

## スプリット

045	Piano1 / Piano2
046	Piano1 / Piano3
047	Piano1 / E.PIANO1
048	Piano1 / E.PIANO2
049	Piano1 / Harpsi
050	Piano1 / Vibes
051	Piano1 / Organ
052	Piano1 / Strings
053	Piano2 / Piano1
054	Piano2 / Piano3
055	Piano2 / E.PIANO1
056	Piano2 / E.PIANO2
057	Piano2 / Harpsi
058	Piano2 / Vibes
059	Piano2 / Organ
060	Piano2 / Strings
061	Piano3 / Piano1
062	Piano3 / Piano2
063	Piano3 / E.PIANO1
064	Piano3 / E.PIANO2
065	Piano3 / Harpsi
066	Piano3 / Vibes
067	Piano3 / Organ
068	Piano3 / Strings
069	E.PIANO1 / Piano1
070	E.PIANO1 / Piano2
071	E.PIANO1 / Piano3
072	E.PIANO1 / E.PIANO2
073	E.PIANO1 / Harpsi
074	E.PIANO1 / Vibes
075	E.PIANO1 / Organ
076	E.PIANO1 / Strings
077	E.PIANO2 / Piano1
078	E.PIANO2 / Piano2
079	E.PIANO2 / Piano3
080	E.PIANO2 / E.PIANO1
081	E.PIANO2 / Harpsi
082	E.PIANO2 / Vibes
083	E.PIANO2 / Organ
084	E.PIANO2 / Strings
085	Harpsi / Piano1
086	Harpsi / Piano2
087	Harpsi / Piano3
088	Harpsi / E.PIANO1
089	Harpsi / E.PIANO2
090	Harpsi / Vibes
091	Harpsi / Organ
092	Harpsi / Strings
093	Vibes / Piano1
094	Vibes / Piano2
095	Vibes / Piano3
096	Vibes / E.PIANO1
097	Vibes / E.PIANO2
098	Vibes / Harpsi
099	Vibes / Organ
100	Vibes / Strings
101	Organ / Piano1
102	Organ / Piano2
103	Organ / Piano3
104	Organ / E.PIANO1
105	Organ / E.PIANO2
106	Organ / Harpsi
107	Organ / Vibes
108	Organ / Strings
109	Strings / Piano1
110	Strings / Piano2
111	Strings / Piano3
112	Strings / E.PIANO1
113	Strings / E.PIANO2
114	Strings / Harpsi
115	Strings / Vibes
116	Strings / Organ
117	Bass / Piano1
118	Bass / Piano2
119	Bass / Piano3
120	Bass / E.PIANO1
121	Bass / E.PIANO2
122	Bass / Harpsi
123	Bass / Vibes
124	Bass / Organ
125	Bass / Strings

C-8500

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1 1～16	1 1～16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	×	3 ×	
ノート ナンバー： 音域	15～113 *****	0～127 21～108	レコーダーデータは送信時0～127 一部の音色で受信0～127
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○9n, V=1～127 ×	○9n, V=1～127 ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	×	×	キー別はレコーダーデータのみ
ピッチ・ベンド	×	×	*C
7 コントロール 11 64 チェンジ 66 67  120,121	○ ○ ○ ○ ○  ○	○ ○ ○ ○ ○  ○	ボリューム *C エクスプレッション *C ダンパーペダル *C, *1 ソステヌートペダル *C ソフトペダル *C, *1  オールサウンドオフ, リセットオールコントローラ
プログラム チェンジ： 設定可能範囲	○0～125 *****	○0～125	*P
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
:ソング・ポジション コモン :ソング・セレクト :チューン	×	×	
リアル :クロック タイム :コマンド	○ ○	×	
:ローカル・ON/OFF その他: オール・ノート・オフ :アクティブ・センシング :リセット	×	○ ○123～127 ○ ×	
備考	*C:コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき(送)受信する。 *P:プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき(送)受信する。 *1:ハーフダンパー出力値(0,38,74,127)		

モード1: オムニ・オン、ポリ      モード2: オムニ・オン、モノ      ○: あり  
 モード3: オムニ・オフ、ポリ      モード4: オムニ・オフ、モノ      ×: なし

※MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグ・インフォメーションへお問い合わせください。



## アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一、保証期間内に製造上の不備による故障が生じた場合は、無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし、次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が、不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■修理や運送費用が、製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめコルグ・サービスステーションまたはインフォメーションへご相談ください。運送にかかる往復の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償となりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。コルグ・サービスステーションまたはインフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし、外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒 168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎ (03) 5376-5022
東京営業所	〒 168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎ (03) 3323-5241
名古屋営業所	〒 466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎ (052) 832-1419
大阪営業所	〒 531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎ (06) 6374-0691
福岡営業所	〒 810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎ (092) 531-0166

■修理等は、最寄りの各営業所または下記までお問い合わせください。

営業技術課	〒 143-0001 東京都大田区東海 5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	☎ (03) 3799-9085
-------	--	------------------

#### <WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

# KORG


- 本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎ (03) 3325-5691
- インフォメーション：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎ (03) 5376-5022
- 東京営業所：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎ (03) 3323-5241
- 名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎ (052) 832-1419
- 大阪営業所：〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F ☎ (06) 6374-0691
- 福岡営業所：〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F ☎ (092) 531-0166

# Installing and setting up the Korg MIDI Driver

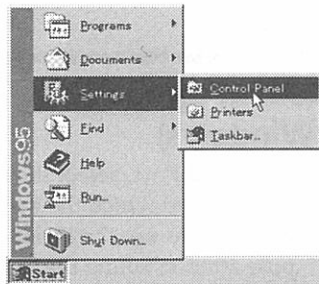
## Installing the Korg MIDI Driver into Windows 95/98 and making settings

### Installing the Korg MIDI Driver into Windows 95/98

If your application (sequencer) is Windows-compatible, using the Korg MIDI Driver will allow you to use a Korg tone generator connected to the serial port (COM, RS-232C) as a MIDI device.

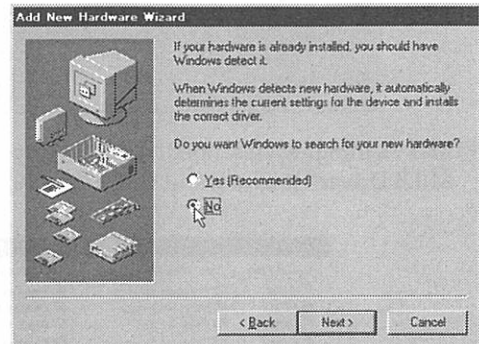
 If your computer is not fast enough, the data at MIDI IN may not be received correctly. Windows NT is not supported.

- 1 In the task bar, click the [Start] button, and then click [Control Panel].



- 2 In the control panel, double-click the "Hardware" or "Add hardware" icon, and the "Hardware wizard" will start up. On Windows 95 click [Next>]. On Windows 98, click [Next>] and when an explanation appears, click [Next>] once again.

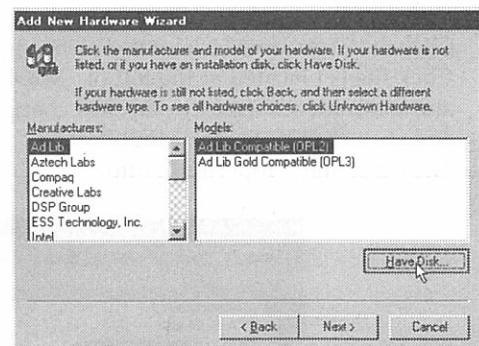
In response to "Do you want Windows to search for your new hardware?" be sure to select "No," and then click [Next>].



- 3 Select "Sound, video, and game controllers," and click [Next>].



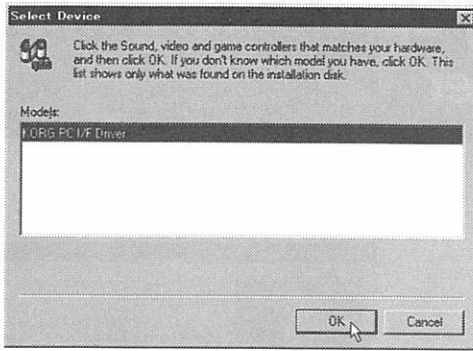
- 4 Click [Have Disk].



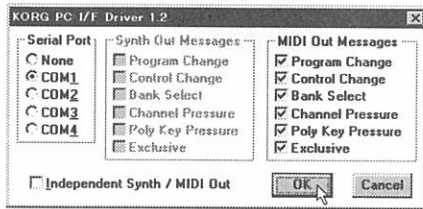
- 5 You will be asked for the drive and directory. Insert the floppy disk containing the Korg PC I/F Driver (AG-001B), and input the drive name.

For example if your floppy disk drive is A, type "A:\".

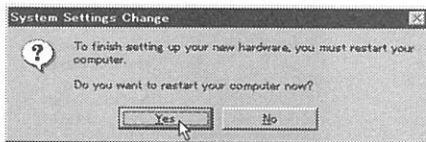
Click the [OK] button, and then click [OK] again.



- ⑥ Make settings as described in "Setting up the Korg MIDI Driver" (below), and click the [OK] button.



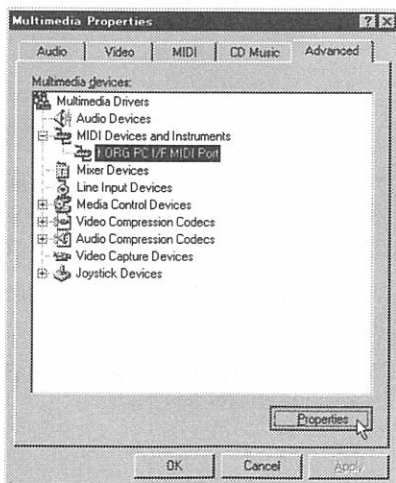
- ⑦ Be sure to restart your computer so that the new driver becomes effective.



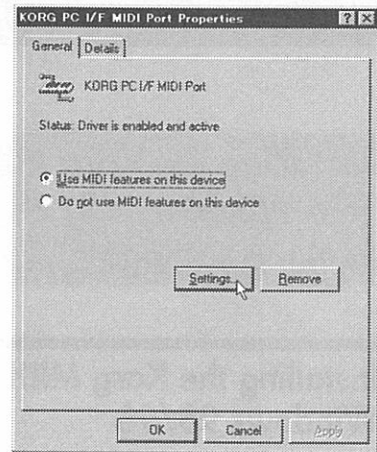
## Korg MIDI Driver settings

- ① In "Control panel," double-click the "Multimedia" icon, and the "Multimedia Properties" dialog box will appear.

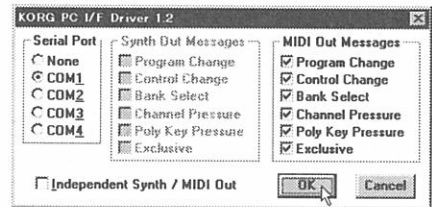
Click the "Advanced" tab located at the upper right. Click the [+] located at the left of "MIDI Devices and Instruments" (the display will change to [-]), and click "KORG PC I/F MIDI Port." Then click the [Properties] button.



- ② "KORG PC I/F MIDI Port Properties" will appear. Click the [Settings] button.



- ③ Make settings as described in "Setting up the Korg MIDI Driver" (below), and click the [OK] button. If you change the settings, you must restart Windows.



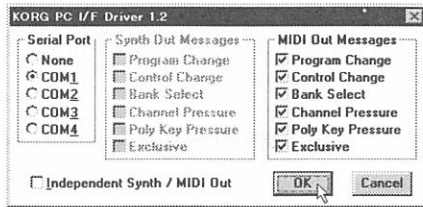
## Setting up the Korg MIDI Driver (Windows)

- ① For Serial Port, select the serial port ("COM1" to "COM4") to which the instrument is connected. If you wish to use the serial port for a different purpose after installing the Korg MIDI Driver, you can either select "None" to disable the driver, or "Delete" the driver and restart Windows.
- ② Since "Independent Synth / MIDI Out" is not supported, do not check it.

However if you are using the C-8500, C-4500, or A-4501, you should check "Independent Synth / MIDI Out." In this case, set the MIDI Out port to "Synth-A."

- ③ Synth Out Messages allows you to select the messages that will be transmitted to the instrument. MIDI Out Messages allows you to select the messages that will be output from the MIDI OUT of the tone generator.

- When you finish making settings, click the [OK] button. Alternatively, if you wish to cancel the changes you made, click [Cancel]. If you have made changes, you must restart Windows.



## Installing the Korg MIDI Driver into a Macintosh

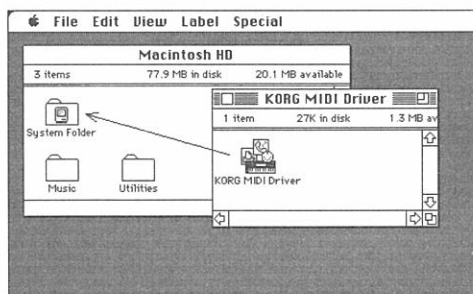
You can use the Korg MIDI Driver if the MIDI application (sequencer) you use runs on Apple MIDI Manager.

If you are using a MIDI application that does not use Apple MIDI Manager, it is not necessary to install the Korg MIDI Driver. Set the MIDI output port of your MIDI application to the port to which the instrument is connected, and set the Clock setting to [1 MHz].

In order to use the Korg MIDI Driver, the Apple MIDI Manager and PatchBay must already be installed. Use the versions of Apple MIDI Manager and PatchBay that are included with your MIDI application. They are not included with the AG-002B.

When the Korg MIDI Driver is used, the "Modem MIDI Out/Port setting" dialog box will allow you to specify the MIDI channels and types of messages which will be transmitted to the instrument. If you do not need this functionality, you can simply use the Apple MIDI Driver without the Korg MIDI Driver.

- Copy the KORG MIDI Driver from the disk included with the AG-002B into the system folder of your startup disk.



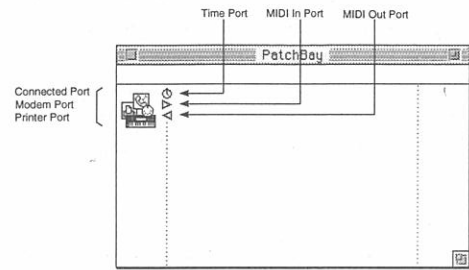
- If there is a copy of Apple MIDI Driver in your system folder, either delete it, or move it to another folder. Be careful not to delete or move the Apple MIDI Manager.

The KORG MIDI Driver includes the functionality of the Apple MIDI Driver.

- From the Special menu, select "Restart."

## Setting up the Korg MIDI Driver (Macintosh)

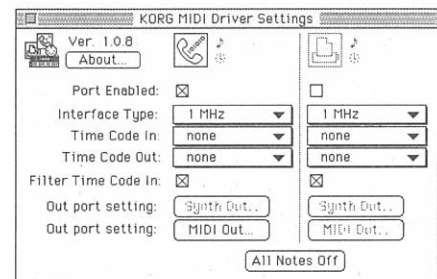
- Start up PatchBay.



If installation has been performed correctly, the KORG MIDI Driver icon shown above will appear in the PatchBay window when PatchBay is started up. (The modem and printer ports will be displayed differently depending on the setup condition.)

- In PatchBay, double-click the KORG MIDI Driver icon.

The setup dialog box will appear.

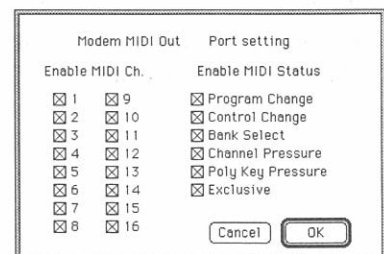


- Check the Port Enable box for the port to which the instrument is connected, and specify [1 MHz].

Since the instrument does not contain a KORG PC IF, do not select [KORG PCIF].

- Press the [Out Port Setting] button.

The following dialog box will appear. Here you can select the MIDI channels/messages which will be output to each port. Only those channels/messages whose box is checked will be output.



- When you have finished making settings, click the [OK] button.

- Start up your MIDI application (sequencer), and drag the mouse from the ▸ of your MIDI application's Out Port to connect it to the MIDI Out of the MIDI Driver.

For details on using PatchBay, refer to "About PatchBay..." etc. in the Apple menu.

To use the Apple MIDI Driver, you must first delete or move the Korg MIDI Driver if it exists in your system folder. Then start up PatchBay, double-click the Apple MIDI Driver icon that appears, check Enabled for the Port to which the instrument is connected, set Interface Type to [1 MHz], and close the dialog box. In PatchBay, drag the mouse from the OutPort ▸ of the MIDI application (sequencer) to connect it to MIDI Out.



### Using PC Exchange to convert SMF data

Most commercially available Standard MIDI File (SMF) song data is saved in MS-DOS format. You can use PC Exchange to make MS-DOS format SMF song files recognizable by the Macintosh.

- ① In the control panel, open PC Exchange.  
The PC Exchange control panel will appear.
- ② Press the [Add...] button.  
The [Specify application associated with DOS extension] window will appear.
- ③ Input ".MID" into the DOS extension field.  
In order to distinguish different types of file, MS-DOS adds an extension consisting of a period and three characters to the end of the filename. It is customary for SMF data to have an extension of ".MID"
- ④ From the list that appears in the lower part of the dialog box, select your SMF-compatible MIDI application (sequencer).  
The selected icon will appear in the Application field.
- ⑤ From the [Document type] popup menu, choose [Midi], and click the [OK] button.

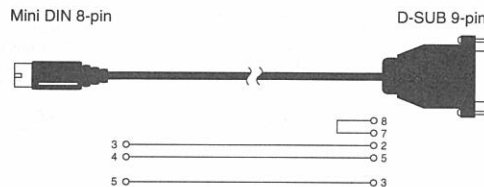
The item which was added to the PC Exchange window will appear, and has now been registered.

Now when an MS-DOS SMF disk is inserted into the disk drive, it can be used immediately.

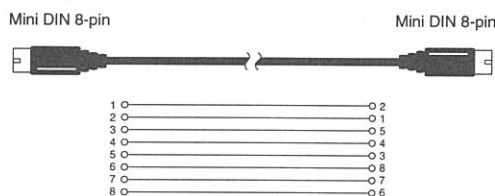
For details refer to the documentation for "Macintosh PC Exchange."

## Wiring diagram for special connection cables

### (1) AG-001B (for IBM PC or Compatible)



### (2) AG-002B (for Macintosh)





PatchBayの使用方法については、「Apple」メニューの「About PatchBay ...」等の説明をご覧ください。

## Apple MIDI Driver を使用する場合

(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後) PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、本機を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサ)のOut Portの▷からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

## PC ExchangeによるSMFの変換方法

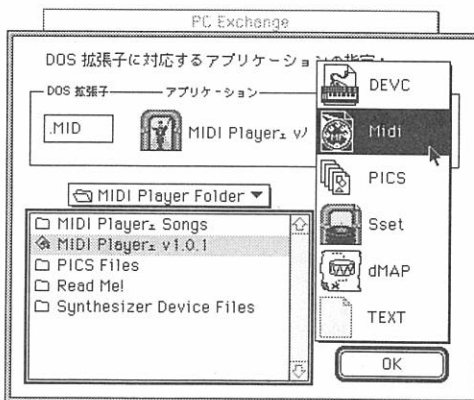
市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。PC Exchangeを使用すると、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

- ① コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。



- ② [追加...]ボタンを押します。

[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。



- ③ DOS拡張子項目に“.MID”と入力します。

MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字をファイル名の後に付けます。SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。

- ④ ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション(シーケンサ)を選びます。

アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。



- ⑤ [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

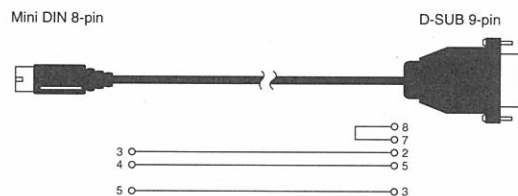
PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

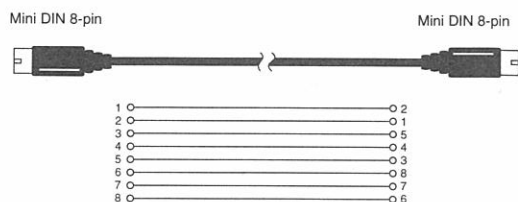
詳しくは“Macintosh PC Exchange”の解説をご覧ください。

## 専用接続ケーブル配線図

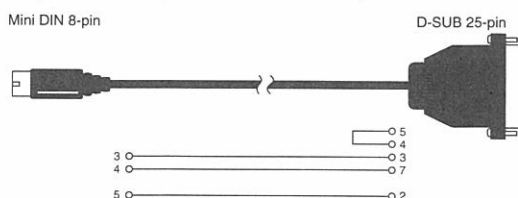
- (1) AG-001B (for IBM PC or Compatible, or PC-98 Serial 2)



- (2) AG-002B (for Macintosh)



- (3) AG-003B (for NEC PC-98)





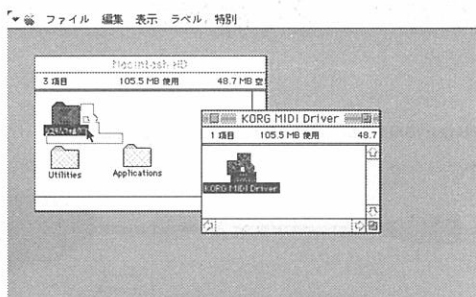
## KORG MIDI Driverの Macintoshへのインストール

KORG MIDI Driverは、ご使用になるMIDIアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Manager上で動作する場合に、使用することができます。

Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーションを使う場合は、KORG MIDI Driverをインストールする必要はありません。MIDIアプリケーションのMIDIの出力ポート設定で本機が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1 MHz]に設定してください。

- ⚠ KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002Bには付属していません。KORG MIDI Driverを使うと、“Modem MIDI Out/Port setting”ダイアログで、本機に送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が不要な場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合はP.4を参照してください。

- ① AG-002Bの付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。



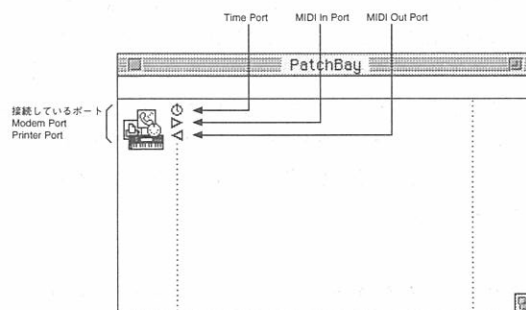
- ② システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。

- ⚠ KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。

- ③ 特別メニューから“再起動”を選択します。

## KORG MIDI Driver (Macintosh)のセットアップ

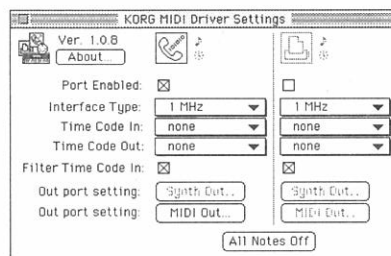
- ① PatchBayを起動します。



インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると上図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)

- ② PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

セットアップダイアログが表示されます。

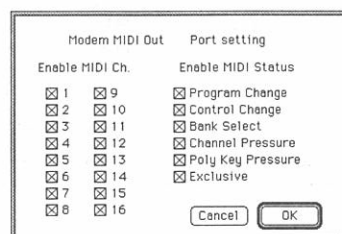


- ③ 本機を接続しているポートの Port Enableをチェックし、Interface Typeを[1 MHz]に設定します。

本機にはKORG PC IFが内蔵されていないので、[KORG PCIF]を選択しないでください。

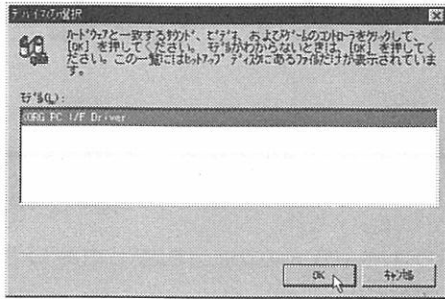
- ④ [Out Port Setting]ボタンを押します。

次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。

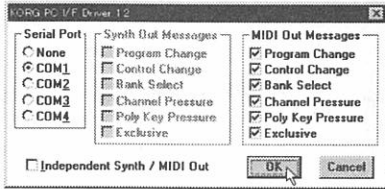


- ⑤ 設定後、[OK]ボタンを押します。

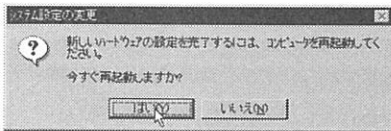
- ⑥ MIDIアプリケーション(シーケンサー)を起動して、MIDIアプリケーションのOut PortのアイコンからマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。



- ⑥ 後半で説明する「KORG MIDI Driverのセットアップ」に従って設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。



- ⑦ ドライバを有効にするために必ず再起動させてください。

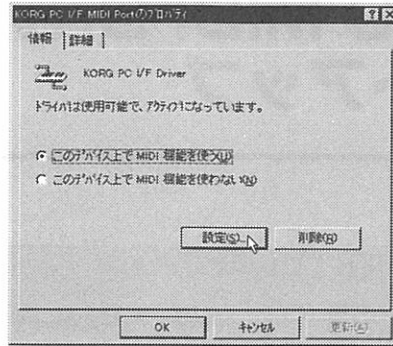


## KORG MIDI Driverの設定

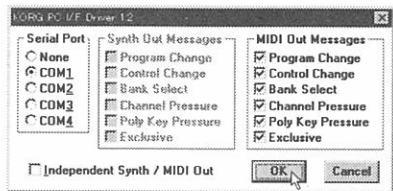
- ① 「コントロールパネル」の中の「マルチメディア」アイコンをダブルクリックすると、「マルチメディアのコントロールパネル」ダイアログが表示されます。右上の「詳細設定」タブをクリックします。「MIDIデバイス」の左端の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります)、「KORG PC I/F MIDI Port」をクリックします。そして「プロパティ」ボタンをクリックします。



- ② 「KORG PC I/F MIDI Port」の「プロパティ」が表示されるので、[設定]ボタンをクリックします。

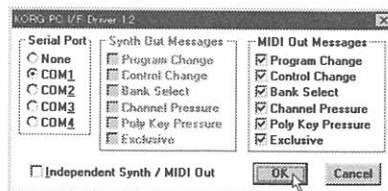


- ③ 後半で説明する「KORG MIDI Driverのセットアップ」に従って設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。



## KORG MIDI Driverのセットアップ

- ① Serial Portでは本機を接続したシリアル・ポートを“COM1”から“COM4”の中から選びます(PC-98xxシリーズでRS-232Cを使用する場合には“COM1”を、SERIAL2を使用する場合には“COM2”を選択してください)。KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアル・ポートを別の用途に使うときには、“None”を選んでドライバを無効にするか、またはドライバを「削除」してWindowsを再起動させてください。
- ② “Independent Synth / MIDI Out”はサポートされていないため、チェックしないでください。ただし、C-8500、C-4500をご使用になる場合は、“Independent Synth / MIDI Out”をチェックしてください。このときMIDI Outポートは“Synth-A”に設定してください。
- ③ Synth Out Messagesでは本機へ送るメッセージを選ぶことができます。また、MIDI Out Messagesでは音源装置のMIDI OUTから出力されるメッセージを選ぶことができます。
- ④ 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。また、変更を取り消したい場合は[Cancel]をクリックします。設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。



# KORG MIDI Driver のインストールと セットアップ

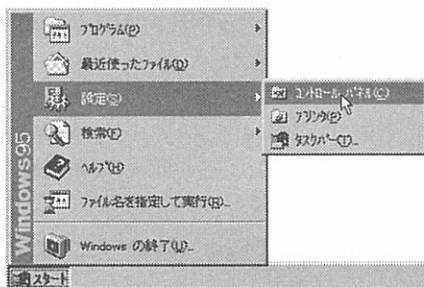
## KORG MIDI Driver の Windows95/98 へのインストー ルと設定

### KORG MIDI Driver の Windows95/ 98 へのインストール方法

お使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合、KORG MIDI Driverを使用しますと、シリアル・ポート(COM、RS-232C)に接続したKORGの音源をMIDIデバイスとして扱えるようになります。

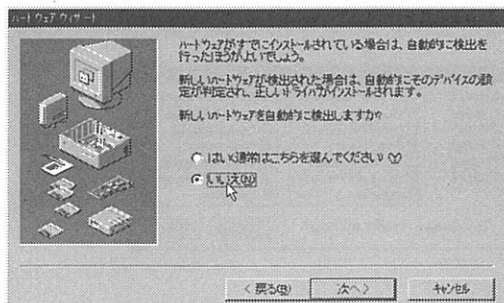
**!** お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。Windows NTはサポートしていません。

- ① タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、設定の中の[コントロールパネル]をクリックします。

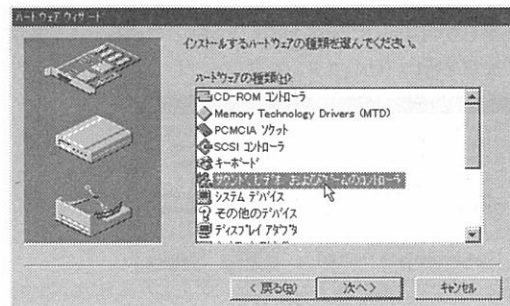


- ② コントロールパネルの中の「ハードウェア」または「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックすると、「ハードウェアウザード」が起動するので、Windows95では[次へ>]をクリックします。Windows98では[次へ>]をクリックして、次の説明が表示されたら再度[次へ>]をクリックします。

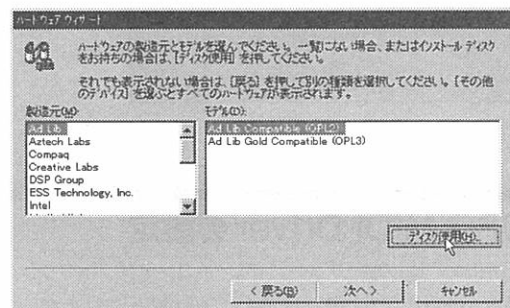
そして「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」で必ず「いいえ」を選択して[次へ>]をクリックします。



- ③ 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロール」を選択して[次へ>]をクリックします。



- ④ 「デバイス使用」をクリックします。



- ⑤ ドライブおよびディレクトリを求めてくるので、AG-001B、AG-003BなどKORG PC I/F Driverの入ったディスクをフロッピー・ドライブに入れ、そのドライブ名を入力します。例えばAドライブの場合は「A:¥」と入力します。ボーナス・ディスク\*などIBM(DOS/V機)用とPC-98xxシリーズ用の両方が入っているディスクの場合には、次のように入力します。

DOS/V機やNECの98NXの場合は、  
「A:¥IBM」(Bの場合は「B:¥IBM」)  
NECのPC-98xxシリーズの場合は、  
「A:¥PC98」(Bの場合は「B:¥PC98」)  
と入力します。

[OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。

## 本機をお使いになる前に

鍵盤を保護するための固定ワイヤーをはずしてください。

1. 本機底面の両側にあるAのネジ(ワイヤーの止まっているネジ)をゆるめて、からげているワイヤーをはずしてください。
2. ワイヤーを片側から引き抜いてください。
3. ゆるめたネジは閉め直してください。

## Before you use the instrument

Please remove the fastener wire that protects the keyboard.

1. At both sides of the bottom panel of the instrument, loosen the two screws A (the screws holding the wire), and detach the wire.
2. Pull out the wire from one end.
3. Tighten the screws that you loosened.

